

2013年度（14年3月期） 第1四半期決算概要

2013年7月31日

日本電気株式会社

(<http://www.nec.co.jp/ir/ja>)

目 次

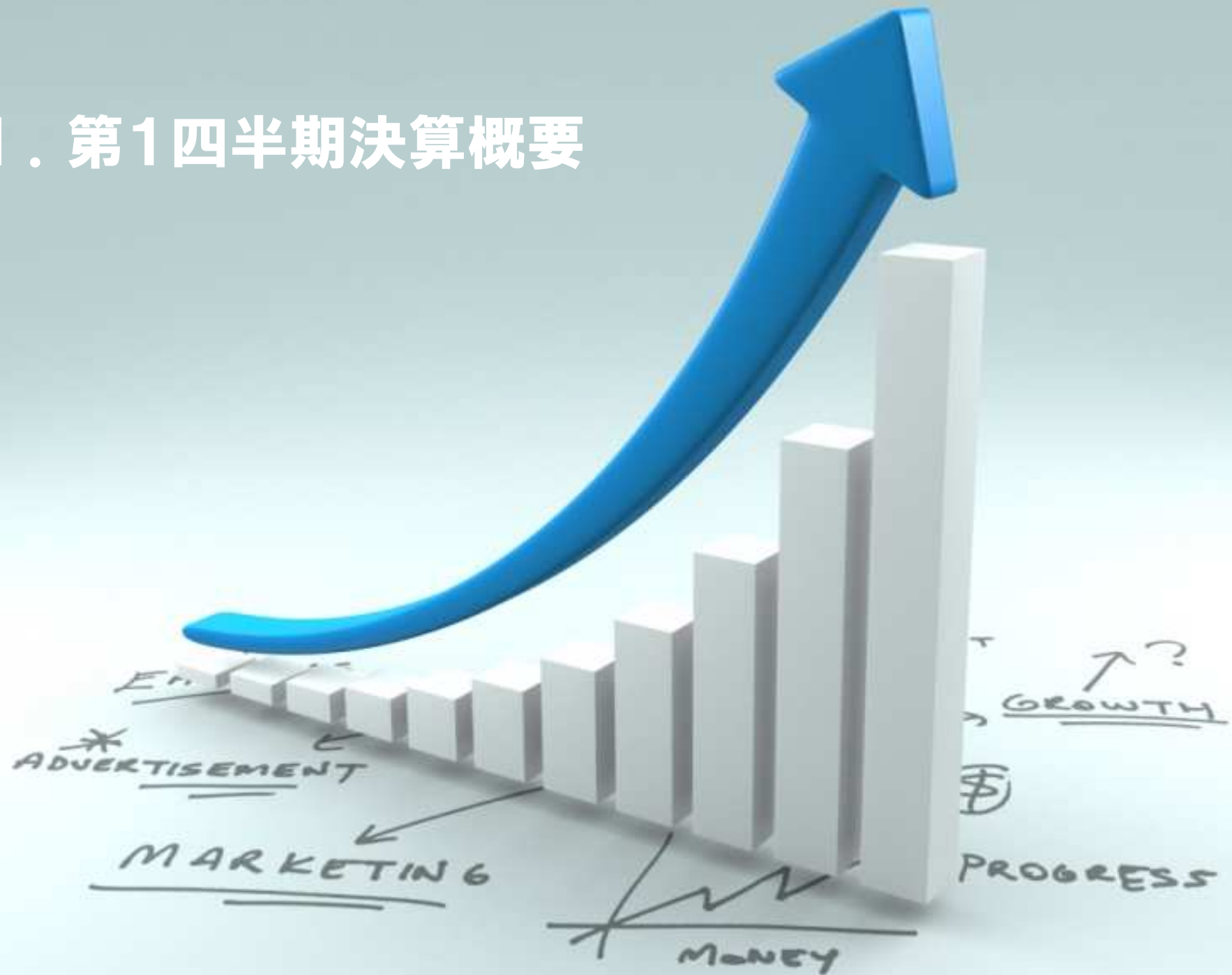
I. 第1四半期 決算概要

II. 業績予想

- 決算概要（補足）
- 業績予想（補足）
- 参考資料（業績データ）

※ 2013年7月9日発表の「セグメントの変更のお知らせ」にてお知らせしたとおり、第1四半期連結会計期間から、セグメントを変更しています。また、前年同期の数値についても新たなセグメントに組み替えて表示しています。

I. 第1四半期決算概要



第1四半期 概況サマリー

前年同期比で減益も、ほぼ想定どおりの進捗

(単位:億円)

	第1四半期 <4～6月>		
	12年度 実績	13年度 実績	前年 同期比
売上高	6,315	6,401	1.4%
営業損益 対売上高比率(%)	△ 79 -1.2%	△ 218 -3.4%	△ 139
経常損益 対売上高比率(%)	△ 122 -1.9%	△ 282 -4.4%	△ 160
当期純損益 対売上高比率(%)	△ 179 -2.8%	△ 215 -3.4%	△ 36
フリーキャッシュフロー	267	410	143

参考：第1四半期の売上平均為替レート(実績) 1ドル=97.88円、1ユーロ=127.06円

セグメント別 実績サマリー

(単位: 億円)

			第1四半期 <4~6月>		
			12年度 実績	13年度 実績	前年 同期比
	パブリック	売上高 営業利益 営業利益率(%)	1,149 1 0.1%	1,266 4 0.3%	10.1% 3
	エンタープライズ	売上高 営業損益 営業利益率(%)	500 △ 27 -5.3%	587 △ 24 -4.1%	17.4% 2
	テレコムキャリア	売上高 営業利益 営業利益率(%)	1,551 127 8.2%	1,540 56 3.6%	△ 0.7% △ 71
	システム プラットフォーム	売上高 営業損益 営業利益率(%)	1,631 △ 18 -1.1%	1,577 △ 66 -4.2%	△ 3.3% △ 48
	その他	売上高 営業損益 営業利益率(%)	1,484 △ 36 -2.4%	1,431 △ 99 -6.9%	△ 3.5% △ 62
	消去・配賦不能	営業損益	△ 126	△ 89	37
合	計	売上高 営業損益 営業利益率(%)	6,315 △ 79 -1.2%	6,401 △ 218 -3.4%	1.4% △ 139

(億円)

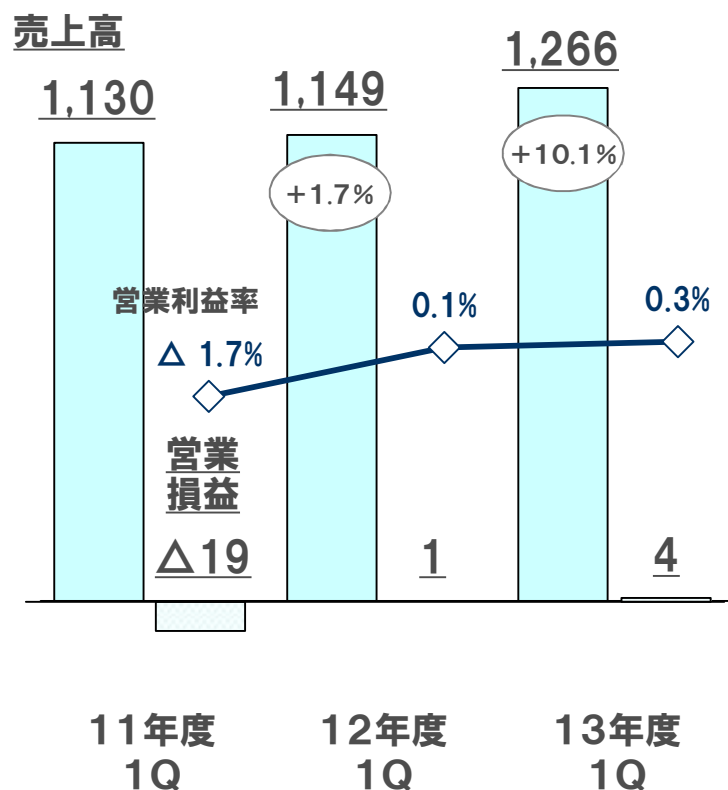
前年
同期比

売上高 **1,266億円** (+10.1%)

△ 官公向け、公共向けが堅調に推移し
増収

営業損益 **4億円** (+3億円)

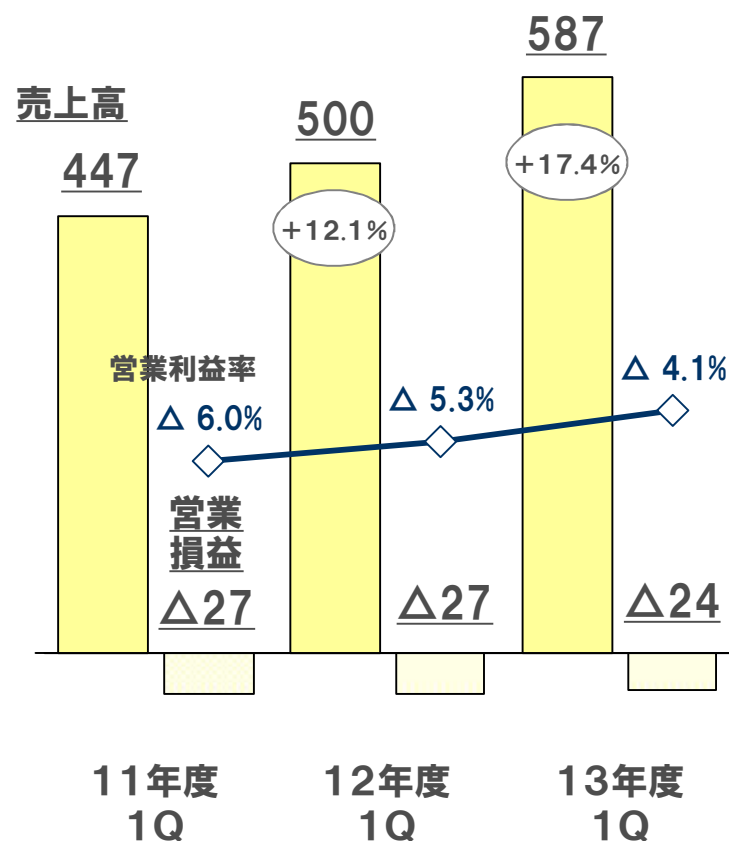
△ 事業拡大に向けた体制強化などの
先行投資増があったものの、
売上増などにより増益



※ カッコ内の%は前年同期比

(億円)

前年
同期比



売上高 **587億円** (+17.4%)

△ 流通・サービス業向けが堅調に推移し増収

営業損益 **△24億円** (+2億円)

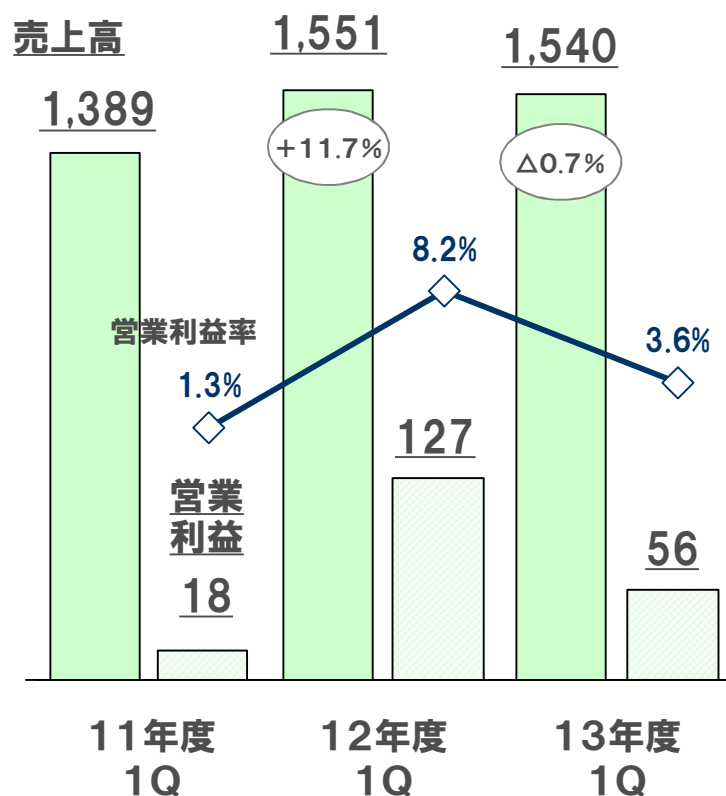
△ 流通・物流インフラ関連の投資増があったものの、売上増などにより改善



※ カッコ内の%は前年同期比

(億円)

前年
同期比



売上高 1,540億円 (△0.7%)

- ▽ 国内は好調であった前年同期から減収
- △ 海外はTOMSを中心に増収

営業利益 56億円 (△71億円)

- ▽ SDN、TOMSへの先行投資増と売上減などにより減益

TOMS : Telecom Operations and Management Solutions
SDN : Software-Defined Networking



※ カッコ内の%は前年同期比

(億円)

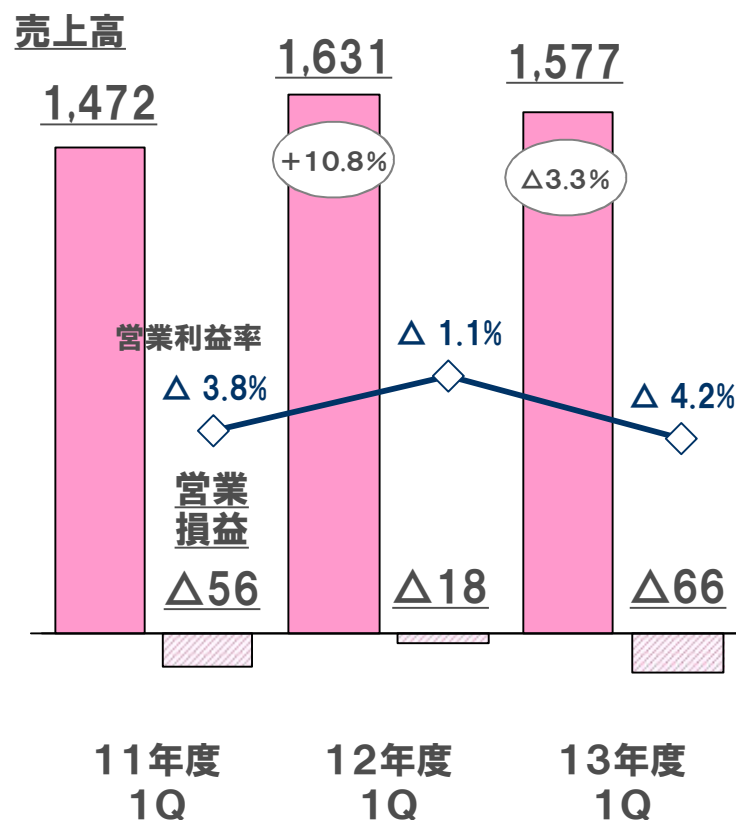
前年
同期比

売上高 1,577億円 (△3.3%)

▽ 前年にあった大型案件の影響により減収

営業損益 △66億円 (△48億円)

▽ 売上減などにより悪化



※ カッコ内の%は前年同期比

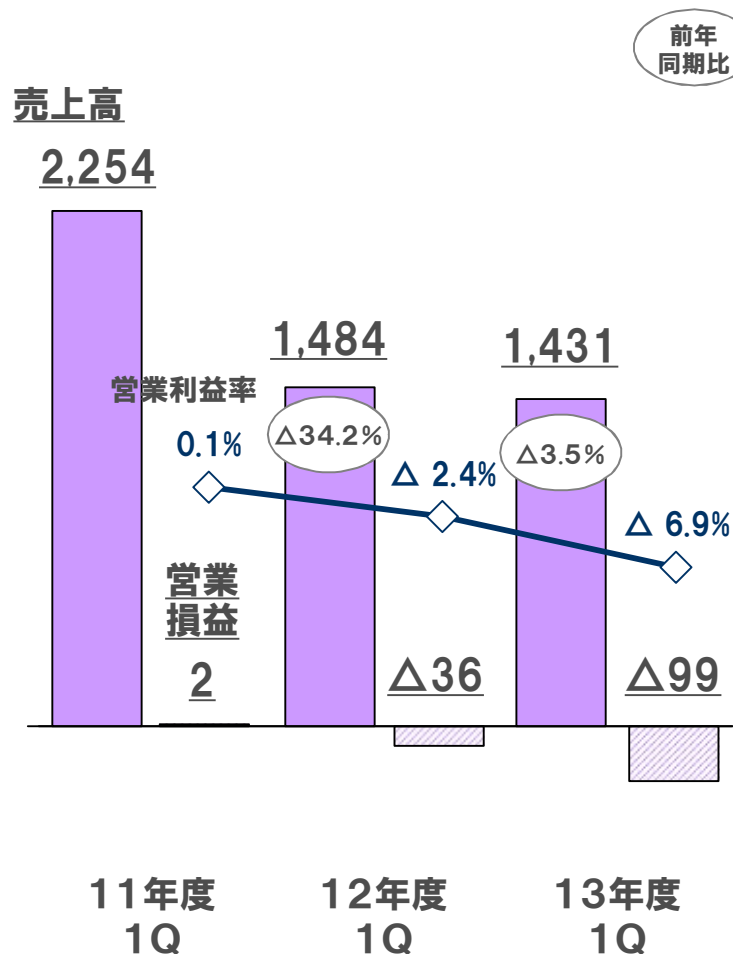
(億円)

売上高 1,431億円 (△3.5%)

▽ 携帯電話の出荷台数減、電子部品事業の非連結化などにより減収

営業損益 △99億円 (△62億円)

▽ 売上減に加え、エネルギー関連の体制・開発強化による費用増などにより悪化



※ カッコ内の%は前年同期比

携帯電話端末事業の見直し

**■ スマートフォンの新規開発を中止、
現在販売中の機種をもって生産・販売を終了**

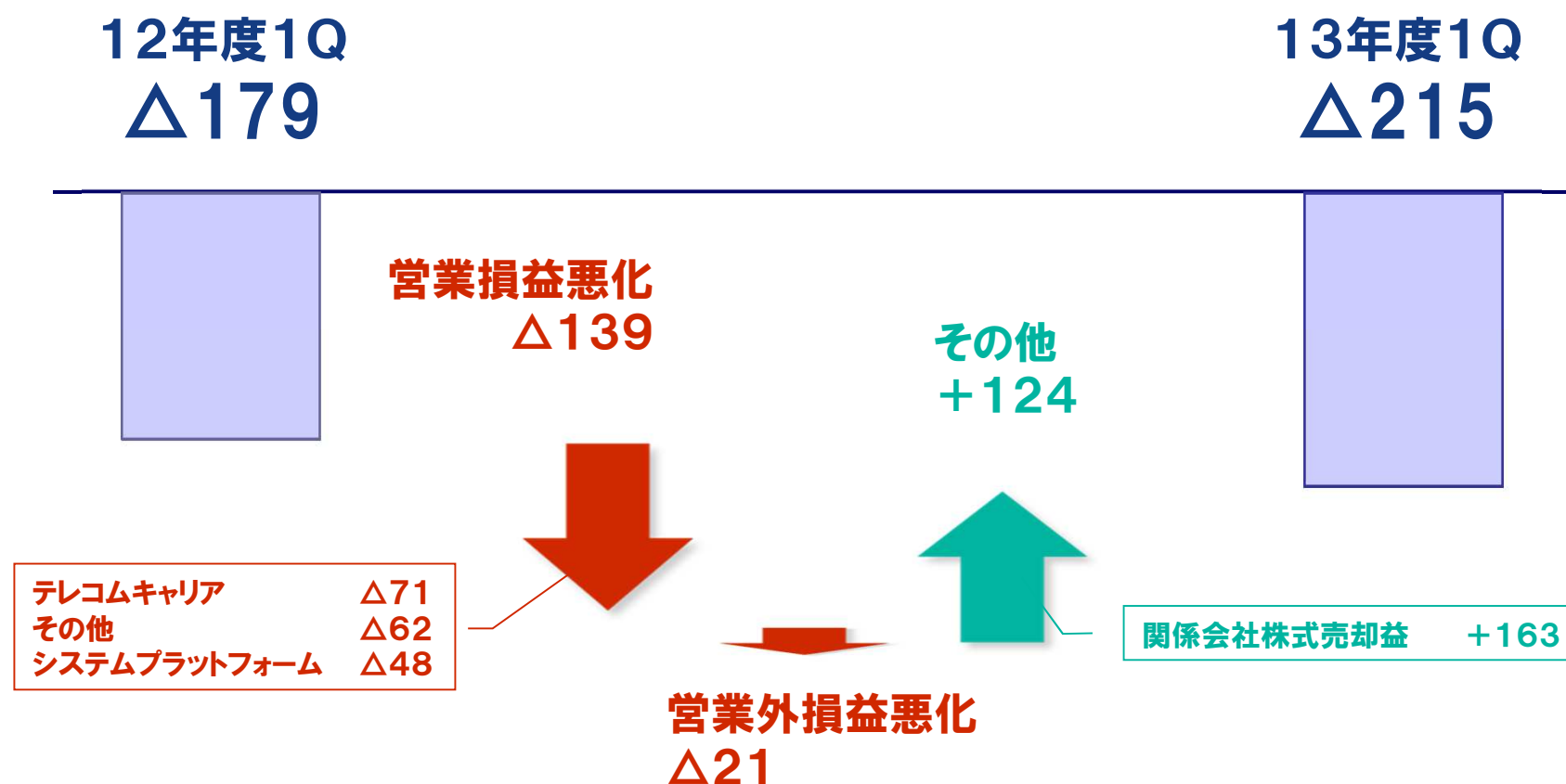
- スマートフォンに関する保守は引き続き行う
- 従来型携帯電話機の開発、
埼玉日本電気での生産は継続

“社会ソリューション事業”に経営資源をシフト

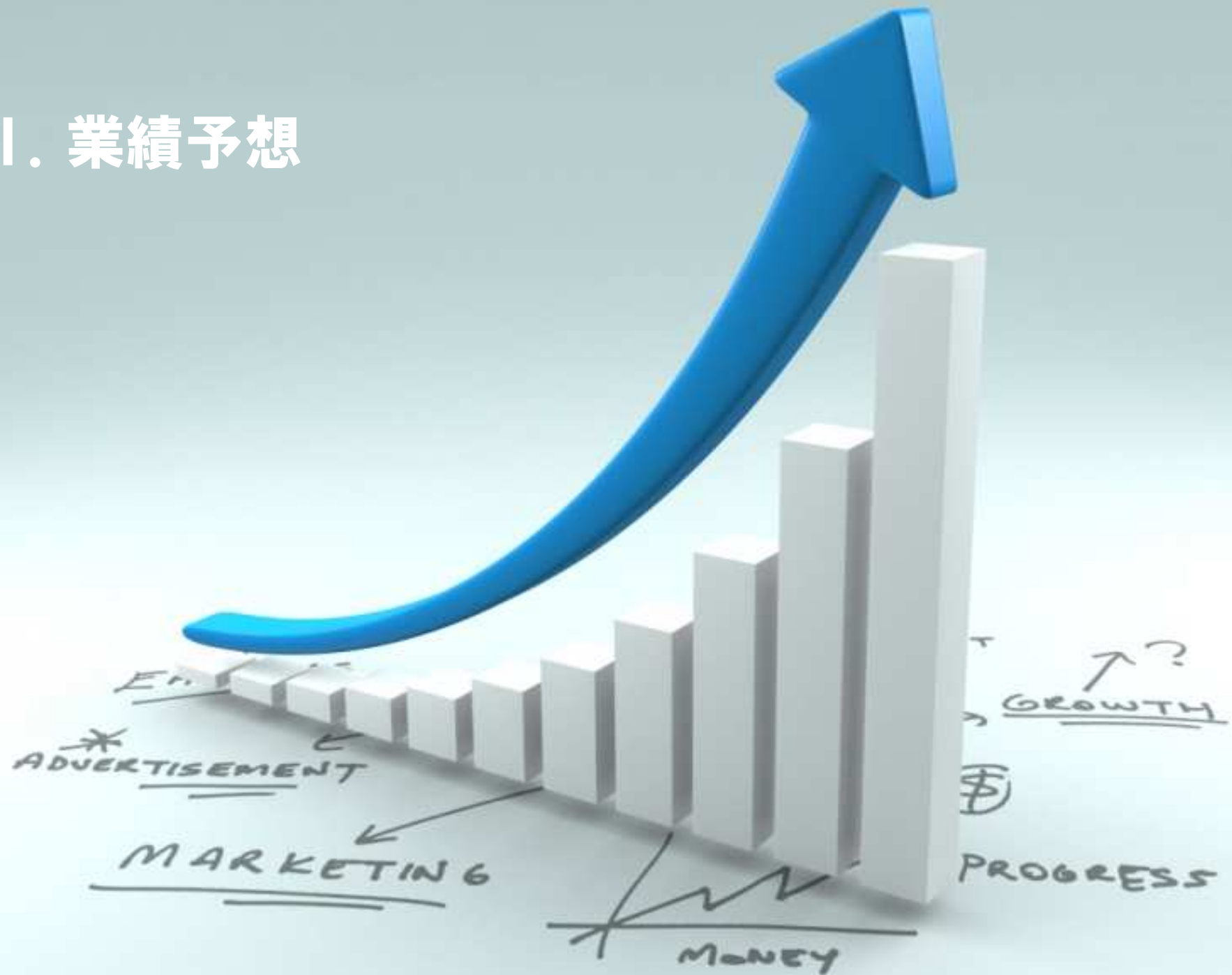
※ 2013年7月31日発表

当期純損益増減（前年同期比）

（億円）



II. 業績予想



2013年度 経営方針

市場環境の見通し

- 国内経済は景況感の回復を背景に緩やかながら堅調な推移を見込む
(欧州経済の停滞に伴う外需の伸び悩みなどに不透明感あり)
- 国内IT投資は回復基調
- キャリア設備投資は減少が見込まれるもTOMS、SDNの市場が拡大
- 社会インフラでは政権交代に伴う経済財政政策が進展
- スマートエネルギーなどのプロジェクトの活発な動き

事業遂行方針

- 社会ソリューション事業への注力／グローバルで戦える成長基盤の確立
(パブリック、エンタープライズ、テレコムキャリア、スマートエネルギー)
- 戦略投資の継続、不採算案件の縮小、CCC圧縮活動の加速…

“CS NO.1” “Global First” “One NEC”

※ CCC : Cash Conversion Cycle

業績予想サマリー

営業利益1,000億円の確実な達成を目指す

(売上高は事業の非連結化の影響を除くと約2%の増収)

(単位:億円)

	通期		
	12年度 実績	13年度 予想	前年度比
売上高	30,716	30,000	△ 2.3%
営業利益 対売上高比率(%)	1,146 3.7%	1,000 3.3%	△ 146
経常利益 対売上高比率(%)	920 3.0%	700 2.3%	△ 220
当期純利益 対売上高比率(%)	304 1.0%	200 0.7%	△ 104
1株当たり 当期純利益(円)	11.71	7.70	△ 4.01

参考：13年度の為替レート前提 1ドル=90円、1ユーロ=115円

(単位:億円)

			通期			
			12年度 実績	13年度 予想	前年度比	
	パブリック	売上高	6,807	7,350	8.0%	
		営業利益	490	570	80	
		営業利益率(%)	7.2%	7.8%		
	エンタープライズ	売上高	2,516	2,550	1.4%	
		営業利益	55	60	5	
		営業利益率(%)	2.2%	2.4%		
	テレコムキャリア	売上高	7,093	7,150	0.8%	
		営業利益	716	600	△ 116	
		営業利益率(%)	10.1%	8.4%		
	システム プラットフォーム	売上高	7,444	7,050	△ 5.3%	
		営業利益	327	290	△ 37	
		営業利益率(%)	4.4%	4.1%		
	その他	売上高	6,857	5,900	△ 14.0%	
		営業利益	169	20	△ 149	
		営業利益率(%)	2.5%	0.3%		
	消去・配賦不能		営業損益	△ 610	△ 540	70
	合 計	売上高	30,716	30,000	△ 2.3%	
		営業利益	1,146	1,000	△ 146	
		営業利益率(%)	3.7%	3.3%		

※ 予想値は、2013年7月31日現在

(億円)

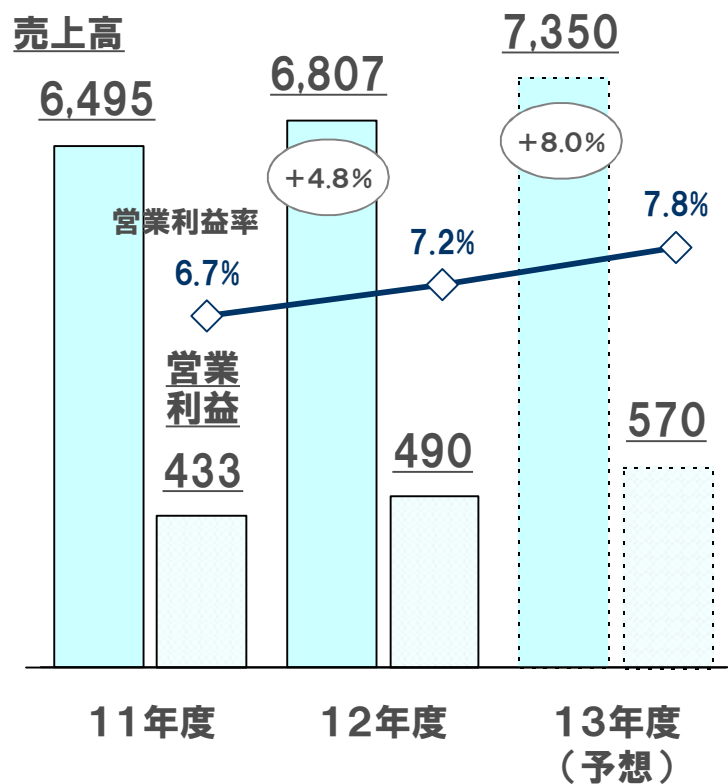
前年度比

売上高 7,350億円 (+8.0%)

△ 官公向け、公共向けを中心に
堅調な推移を見込む

営業利益 570億円 (+80億円)

△ 売上増、原価低減などにより
増益を見込む



※ 予想値は、2013年7月31日現在、カッコ内の%は前年度比

(億円)

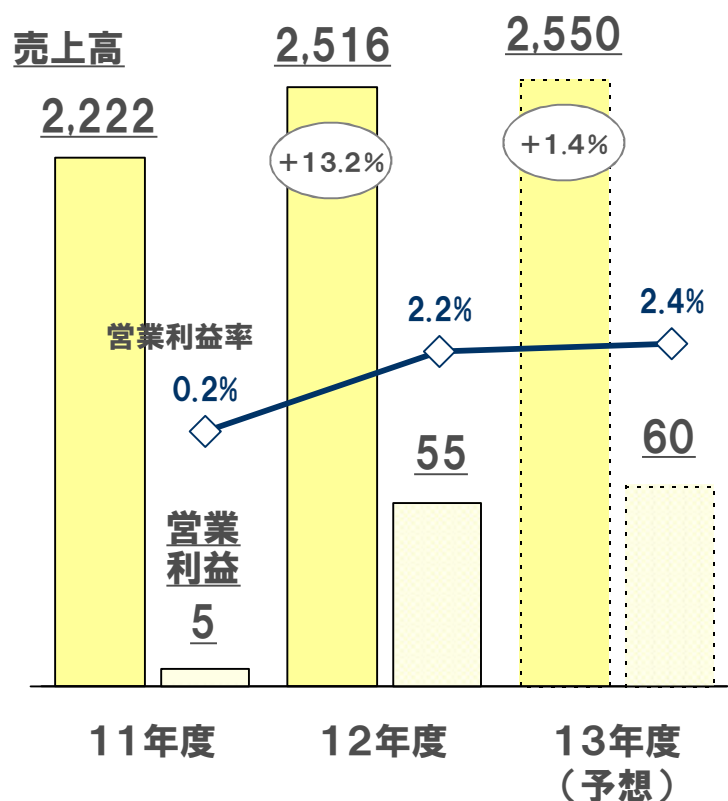
前年度比

売上高 **2,550億円** (+1.4%)

△ 製造業向けの堅調な推移を見込む

営業利益 **60億円** (+5億円)

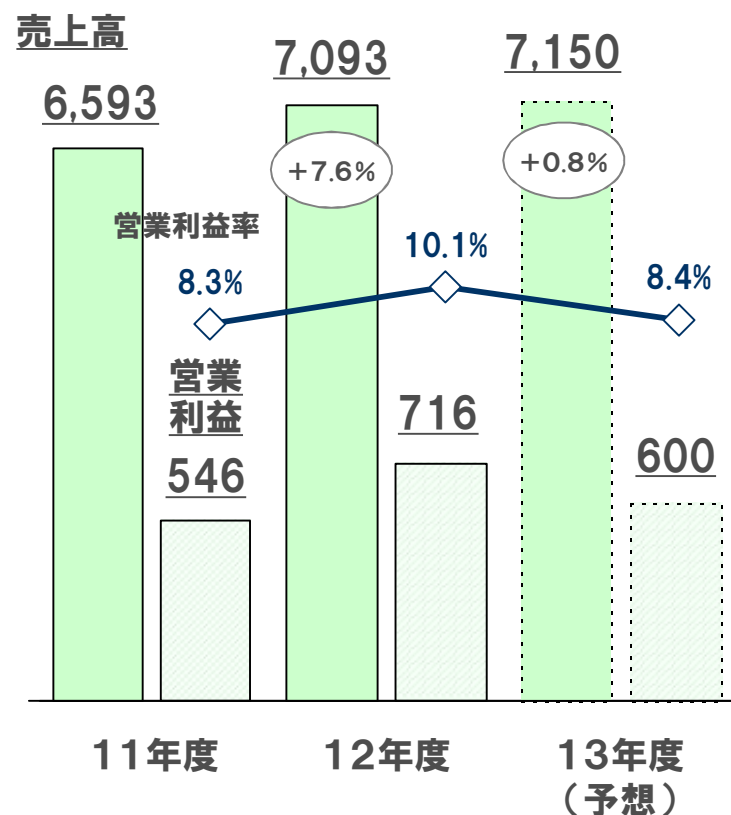
△ 売上増などにより増益を見込む



※ 予想値は、2013年7月31日現在、カッコ内の%は前年度比

(億円)

前年度比



売上高 7,150億円 (+0.8%)

▽ 国内は好調であった前年度から減収を見込む

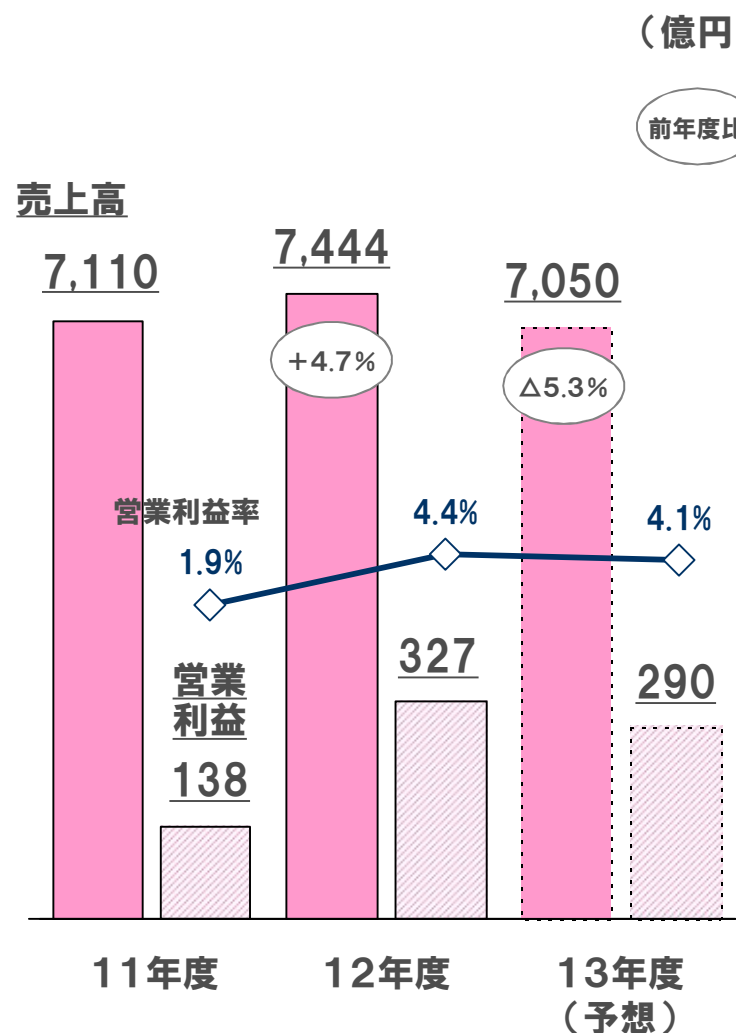
△ 海外はTOMS、モバイルバックホールを中心に増収を見込む

営業利益 600億円 (△116億円)

▽ SDNなどの投資加速と、前年にあった知財関連の一過性の利益計上の影響により減益を見込む



※ 予想値は、2013年7月31日現在、カッコ内の%は前年度比



売上高 7,050億円 (Δ5.3%)

▽ 前年にあった大型案件の影響により
ハードウェアを中心に減収を見込む

営業利益 290億円 (Δ37億円)

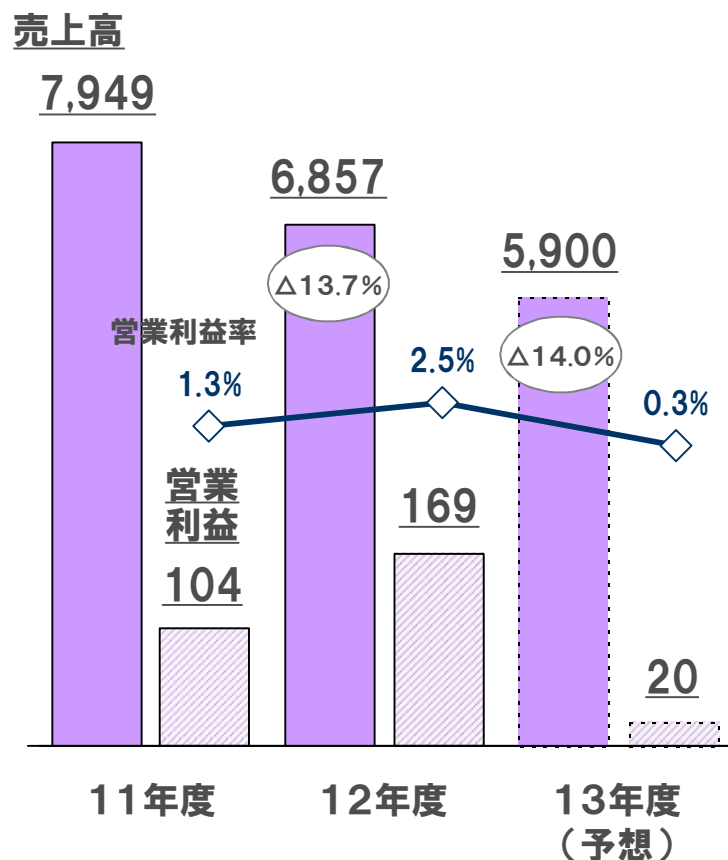
▽ 売上減などにより減益を見込む



※ 予想値は、2013年7月31日現在、カッコ内の%は前年度比

(億円)

前年度比



売上高 5,900億円 (Δ14.0%)

▽ NECモバイルリングおよび電子部品事業の非連結化などにより減収を見込む

営業利益 20億円 (Δ149億円)

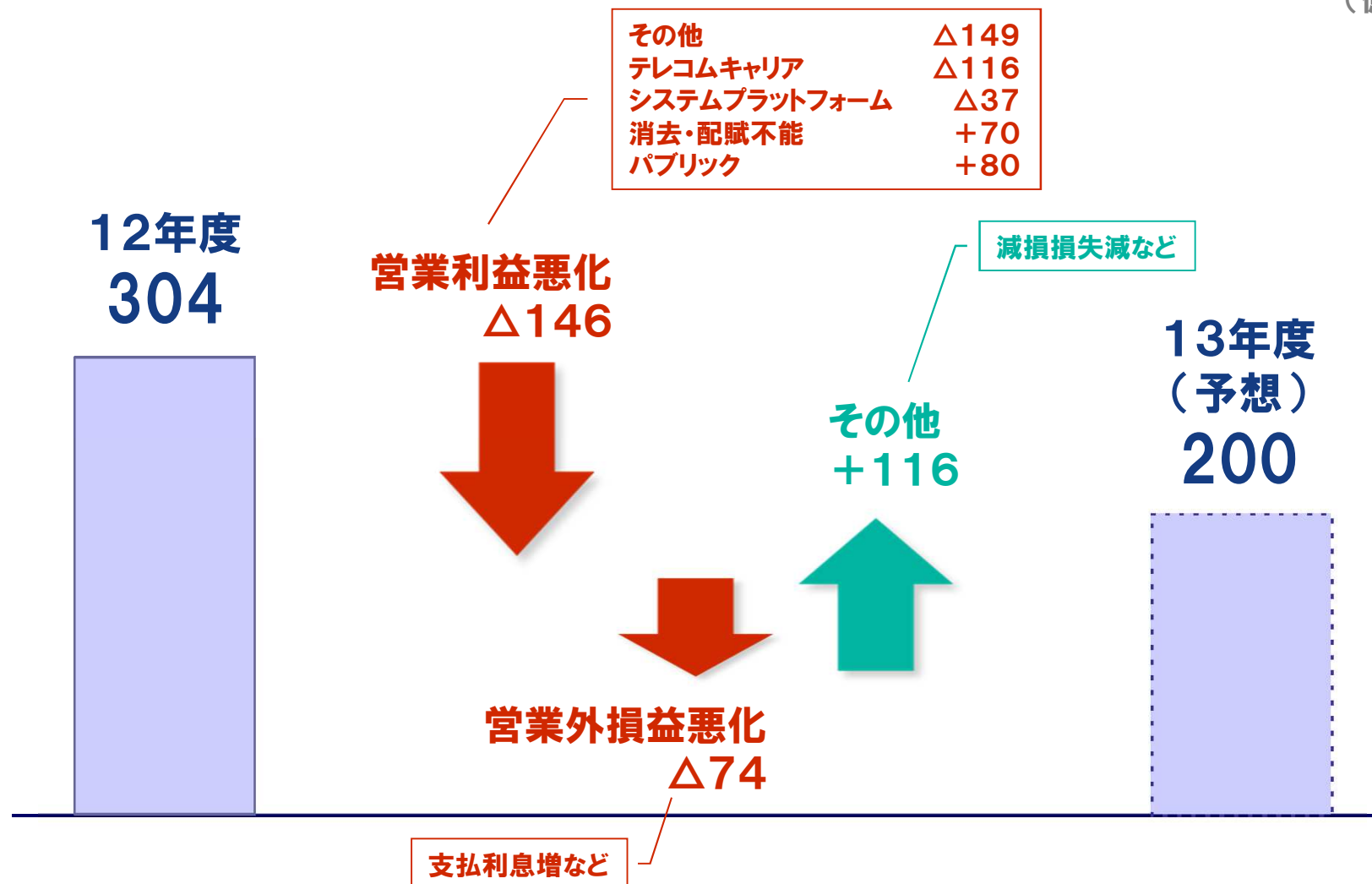
▽ 前年の液晶関連特許の売却の影響などにより減益を見込む

※ 予想値は、2013年7月31日現在、カッコ内の%は前年度比

当期純利益増減（前年度比）

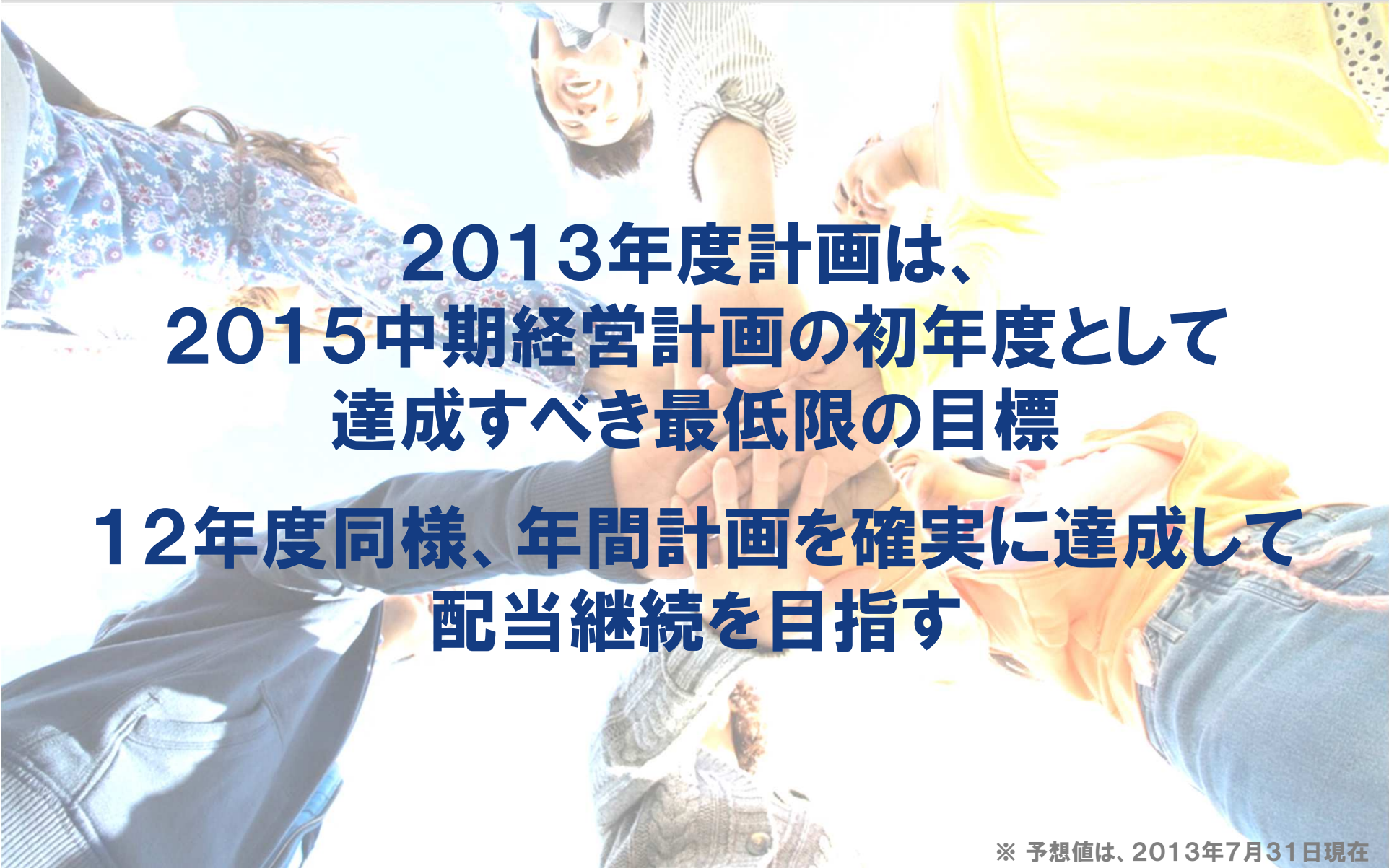
13予想

（億円）



※ 予想値は、2013年7月31日現在

まとめ



**2013年度計画は、
2015中期経営計画の初年度として
達成すべき最低限の目標**

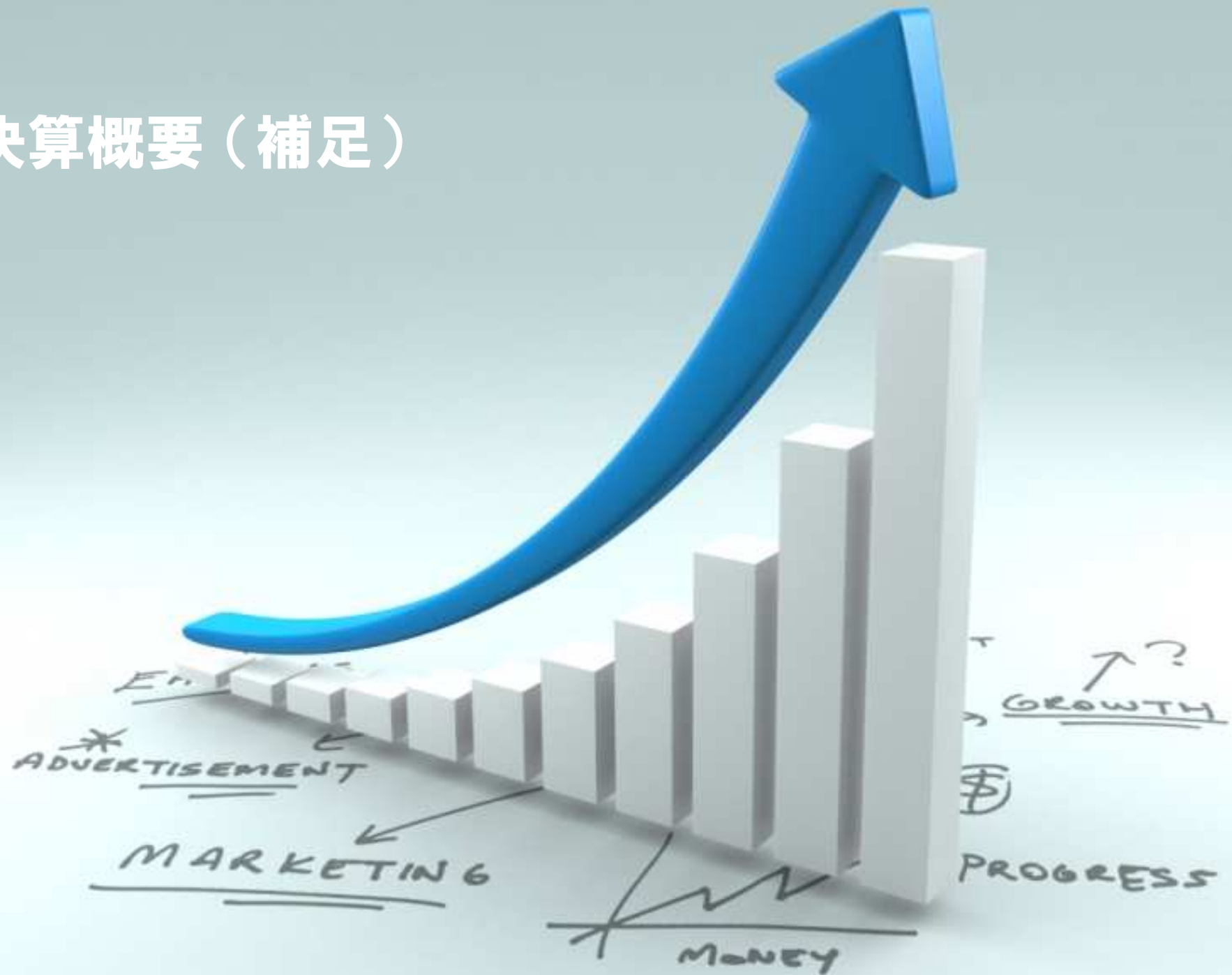
**12年度同様、年間計画を確実に達成して
配当継続を目指す**

※ 予想値は、2013年7月31日現在

Empowered by Innovation

NEC

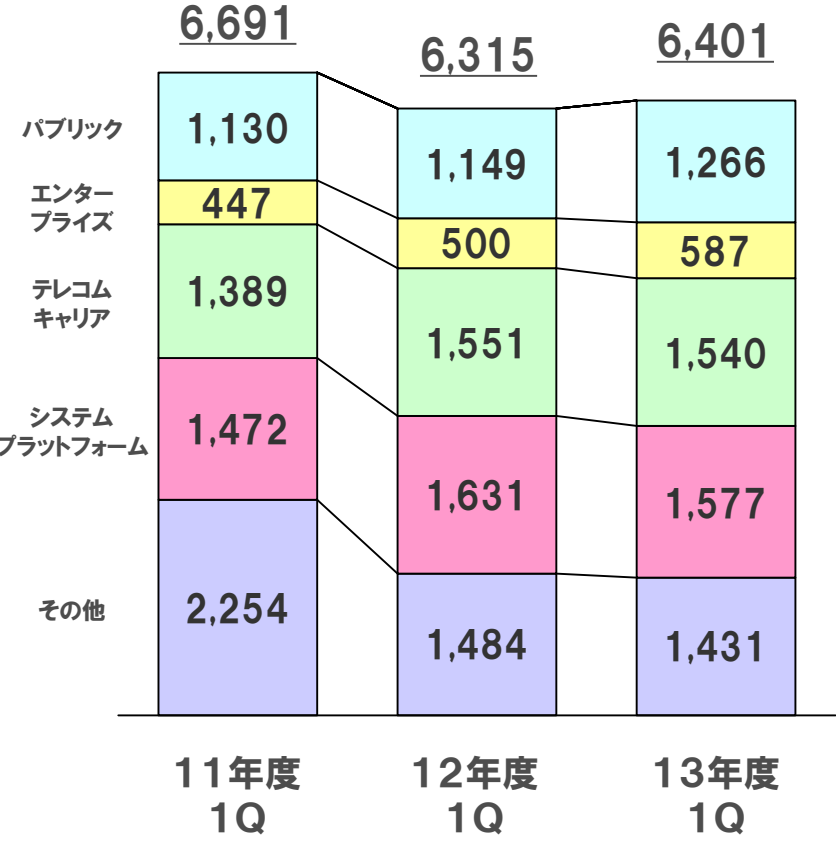
決算概要（補足）



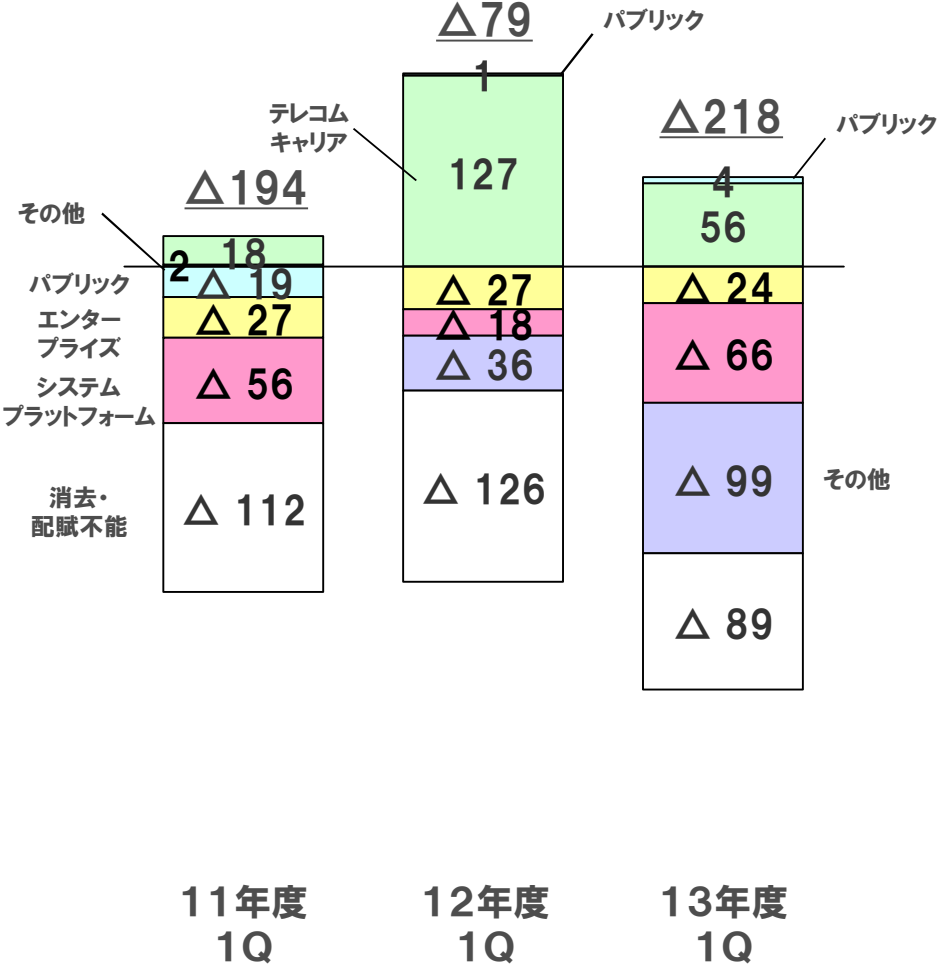
セグメント別 第1四半期実績

(億円)

売上高



営業損益



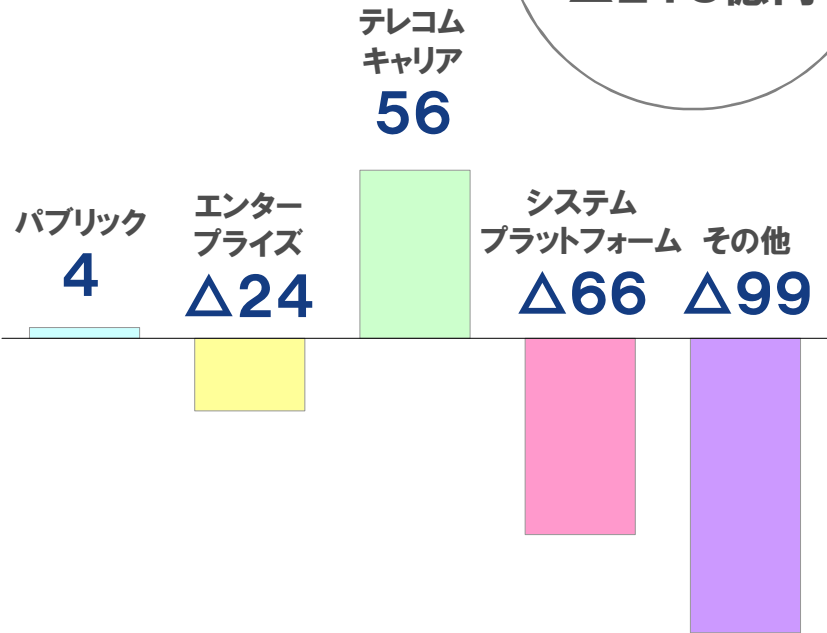
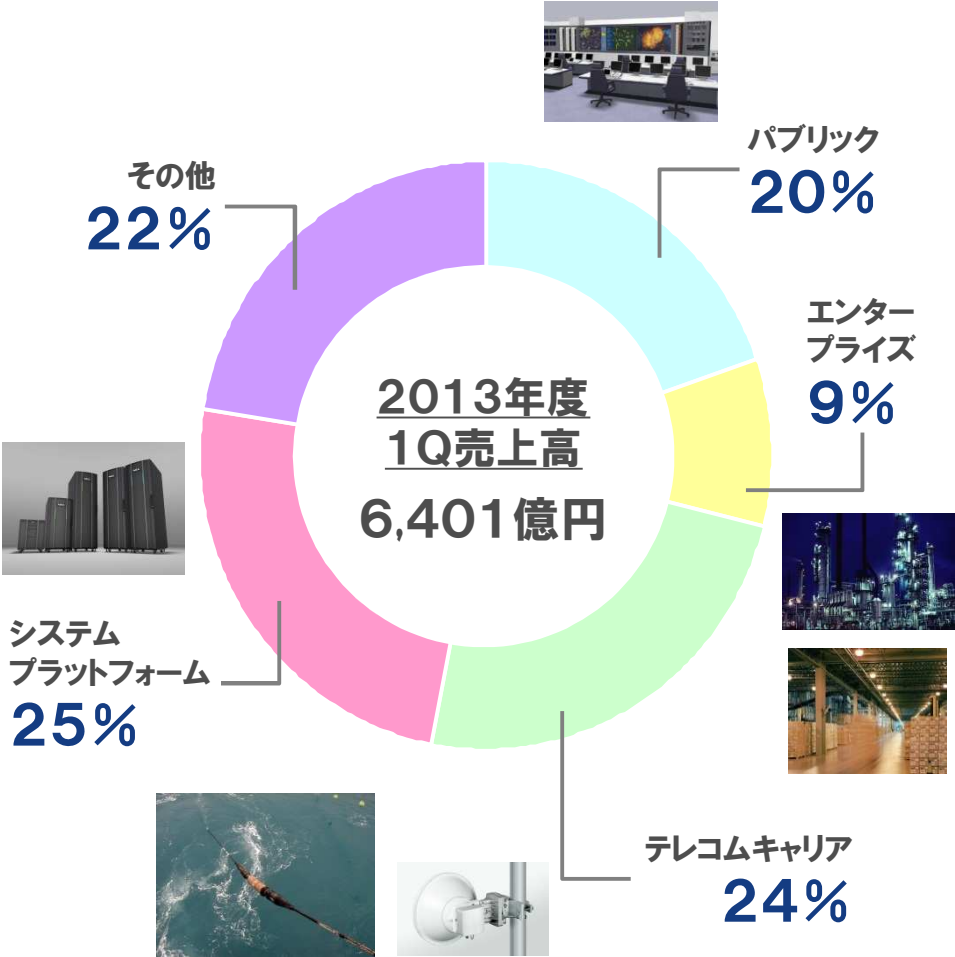
セグメント別 第1四半期実績サマリー

売上高

営業損益

(億円)

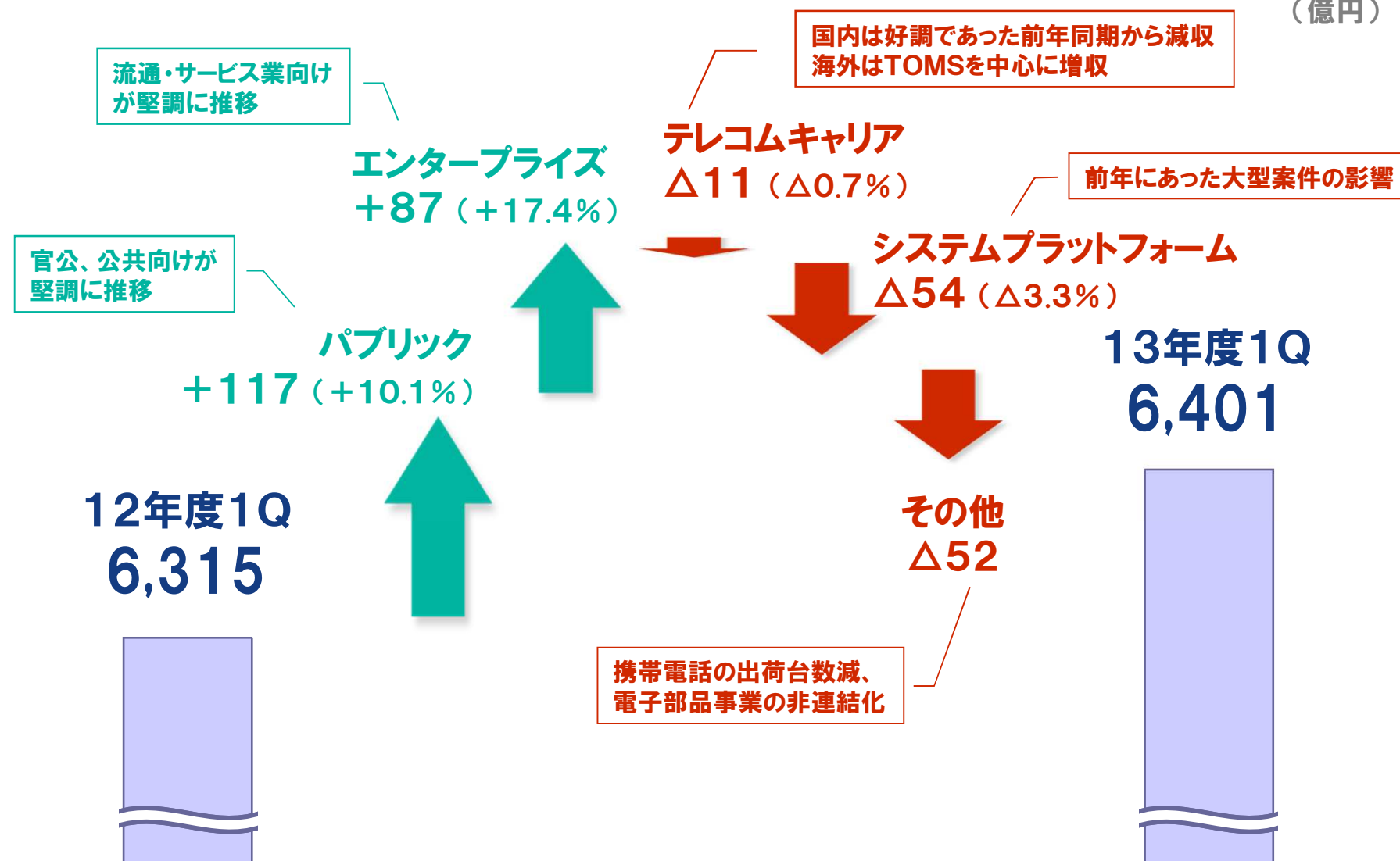
2013年度
1Q営業損益
△218億円



売上高増減（前年同期比）

第1四半期

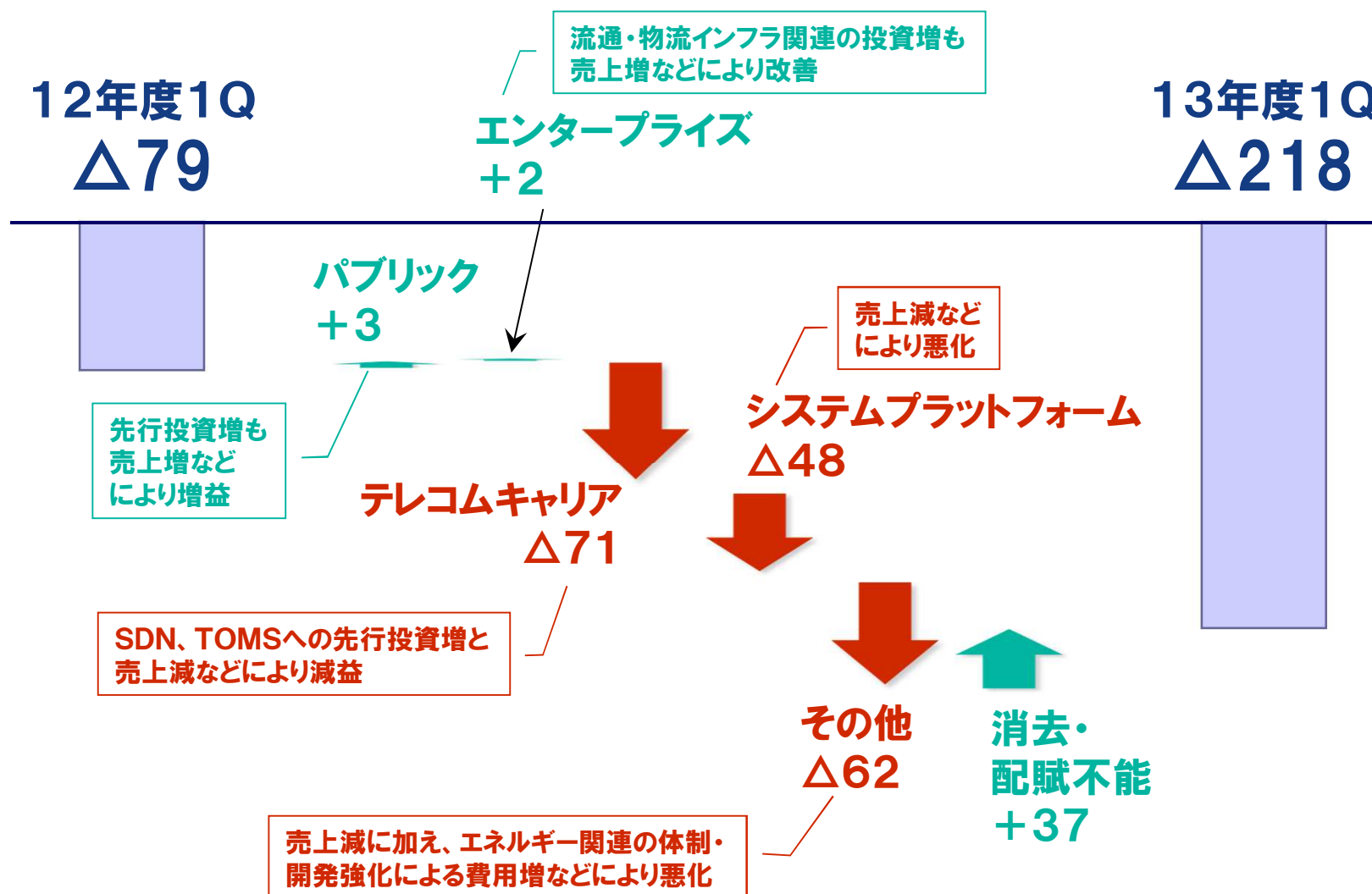
（億円）



営業損益増減（前年同期比）

第1四半期

（億円）

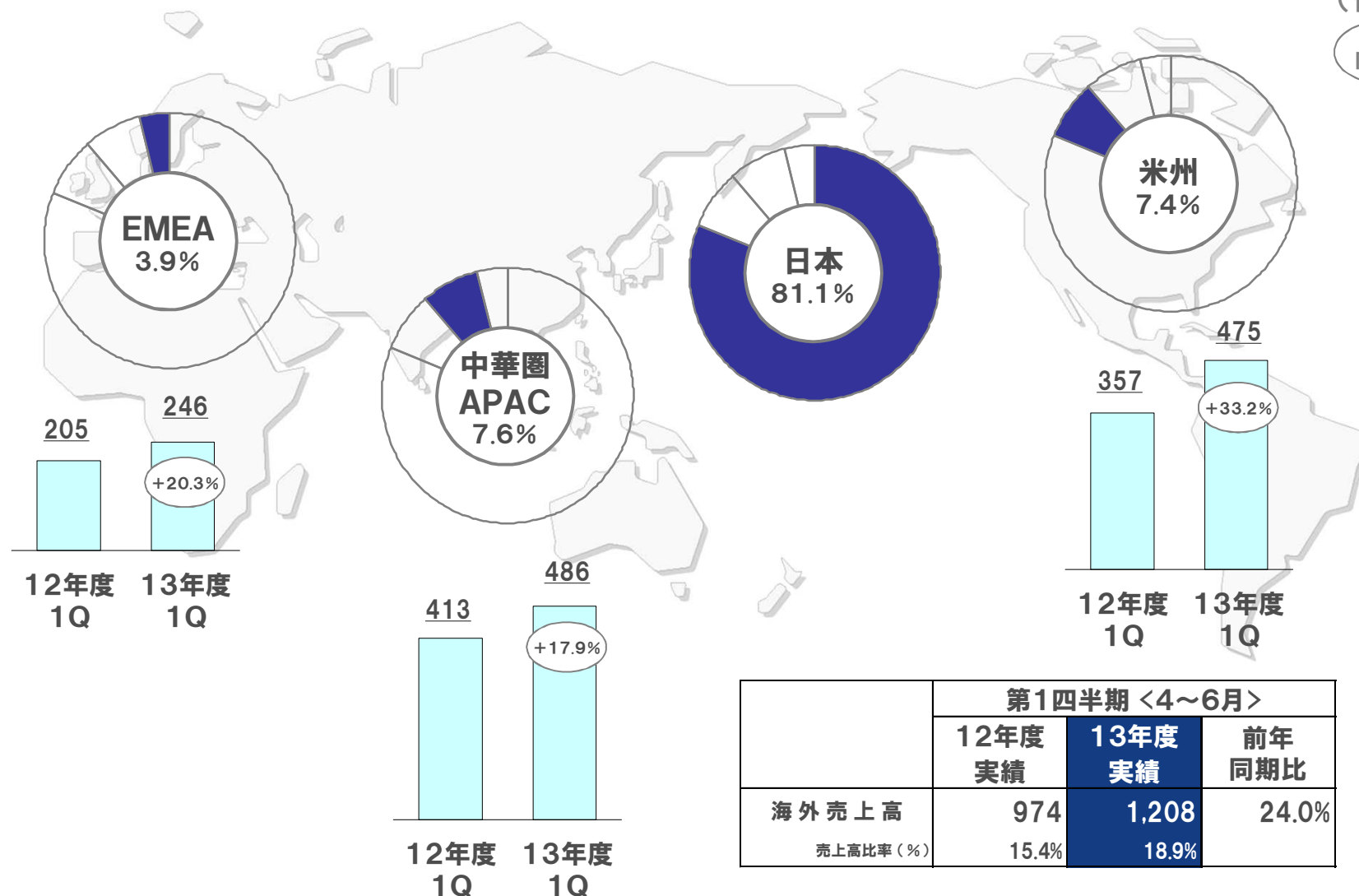


海外売上高

第1四半期

(億円)

前年
同期比



※ 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国または地域に分類しています。

財政状態に関する経営指標

(単位:億円)

	13/3末	13/6末	13/3末比	12/6末
総 資 産	25,810	24,661	△ 1,148	23,717
純 資 産	8,361	7,847	△ 514	7,457
有利子負債残高	6,035	6,655	620	6,417
自 己 資 本 自己資本比率(%)	7,107 27.5%	6,834 27.7%	△ 273 0.2pt	6,263 26.4%
D/Eレシオ(倍)	0.85	0.97	△ 0.12pt	1.02
ネットD/Eレシオ(倍)	0.57	0.55	0.02pt	0.67
現金及び現金同等物の 期 末 残 高	1,971	2,867	895	2,220

《参考》貸借対照表の状況（13／6末）

総資産 2兆4,661億円（前年度末比 Δ1,148億円）



《参考》主要な新製品・新ソリューション

(発表日)

- SDN事業を強化～新ソリューション体系「NEC SDN Solutions」を確立～ (7/10)
- 電子カルテシステム「MegaOak/iS」を発売～MegaOak電子カルテシリーズのラインアップを拡充～ (7/8)
- 省電力性能世界1位の1Way空冷式スリムサーバ「Express5800/GT110f-S」など3機種を発売 (7/4)
- 子会社のネットクラッカー社が通信運用管理ソリューションを強化 (7/3)
- 最新のOpenFlow Ver1.3に対応した「UNIVERGE PFシリーズ」のコントローラおよびスイッチの新製品2機種を発売 (6/10)
- クラウドシステムの耐障害性・信頼性を向上させるサービス実行基盤「WebOTX Application Server V9」を発売 (5/30)
- OpenFlow連携によりクラウド運用を自動化するクラウド基盤ソフト「WebSAM vDC Automation」の新製品発売 (5/29)
- 21世紀の教室環境を実現するNEC学校ICT推進ソリューションを発売 (5/8)
- 大規模プラント向け故障予兆監視システムを開発～NECのビッグデータ解析技術を応用～ (4/8)
- 業種・業務向けに最適化した垂直統合型製品「NEC Solution Platforms (TM)」を発売
～プラットフォーム構築期間を最大60%短縮、コストを最大40%削減～ (4/3)
- 文字検索処理にかかる消費電力を1/100に削減する検索用論理集積回路の基本動作を実証
～スピントロニクス論理集積回路技術の優れた省電力性を確認～ (6/10)
- 強風下でも快適な通話や録音を可能にする風雑音抑圧技術を開発～世界初、風の特性や強さに柔軟に対応する抑圧技術～ (5/7)
- ベライゾンとの、フィールドファイバを活用した高ビットレート伝送技術の実証実験にて、3年連続で業界最大容量のトラフィック伝送に成功 (4/11)



1Way 空冷式スリムサーバ
「Express5800/GT110f-S」



OpenFlow Ver1.3対応
「UNIVERGE PF5459-48XP」



垂直統合型製品
「NEC Solution Platforms (TM)」

《参考》主要な広報発表

(発表日)

[受注/納入など]

- 日本海溝海底地震津波観測網の敷設工事を開始～千葉県房総沖の海底ケーブル陸揚げ作業を7月9日に実施～ (7/9)
- NTTドコモのLTE対応小型無線基地局装置を納入 (7/5)
- ダイキン工業の基幹システム向けIT基盤をクラウドサービスで提供～グローバル事業拡大への柔軟な対応や、IT費用削減を実現～ (7/5)
- 東京都北区へクラウド型ビデオ通話サービスを提供～地方公共団体で初めての5か国語対応ビデオ通話～ (7/2)
- アビームと、旭化成グループの情報活用基盤を構築～SAP HANAを活用し、大量の業務データをリアルタイムに分析・把握～ (7/1)
- 日本と東南アジア諸国を結ぶ大型海底ケーブルプロジェクト「SJC」が稼働開始 (6/27)
- 台湾で勘定系システムの共同バックアップシステムを構築 (6/27)
- 子会社のネットクラッカー社が米国 大手通信事業者スプリントへマネージドサービスを提供 (6/25)
- 光海底ケーブルシステム「APCN2」の増設を受注～毎秒100ギガビットの光海底ケーブル用端局装置を納入～ (6/20)
- 自社のITプラットフォーム事業における生産管理システムを刷新～グローバルSCM強化に向けたシステム刷新の第一弾～ (6/18)
- シンガポールにおいて安全・安心な街づくりのための実証実験に参加 (6/5)
- ロシアの大手携帯電話事業者へ光伝送装置を納入 (5/28)
- 住友商事と、ミャンマー向け通信インフラ構築を受注～無償ODAによる「通信網緊急改善計画」の契約を締結～ (5/21)
- ブラジル サルバドル市のスタジアムICTシステムを構築～スマートシティソリューションを新興国等で展開～ (4/12)
- 中国重慶市とスマートシティ・クラウド分野において戦略的パートナーシップを締結 (4/10)
- 台湾で防災救急情報クラウドシステムを受注～アジアパシフィック地域に防災救急情報クラウドシステムを拡販～ (4/3)



「LTE対応
小型無線基地局装置」



「クラウド型ビデオ通話サービス」
サービス利用イメージ

[新事業など]

- ネボンと、ハウス内機器の制御機能を農業ICTクラウドサービスで実現～千葉県の農業生産法人へ導入～ (7/11)
- 建物の統合的なエネルギー管理を実現するクラウド対応BEMS「Butics-SX」を発売～蓄電池や太陽光パネルも含めた最適な運用を実施～ (6/26)
- 国内初、蓄電池レンタルによる家庭向けエネルギーサービスを開始～4月26日より先行受付開始、6月1日から順次サービスを提供～ (4/25)

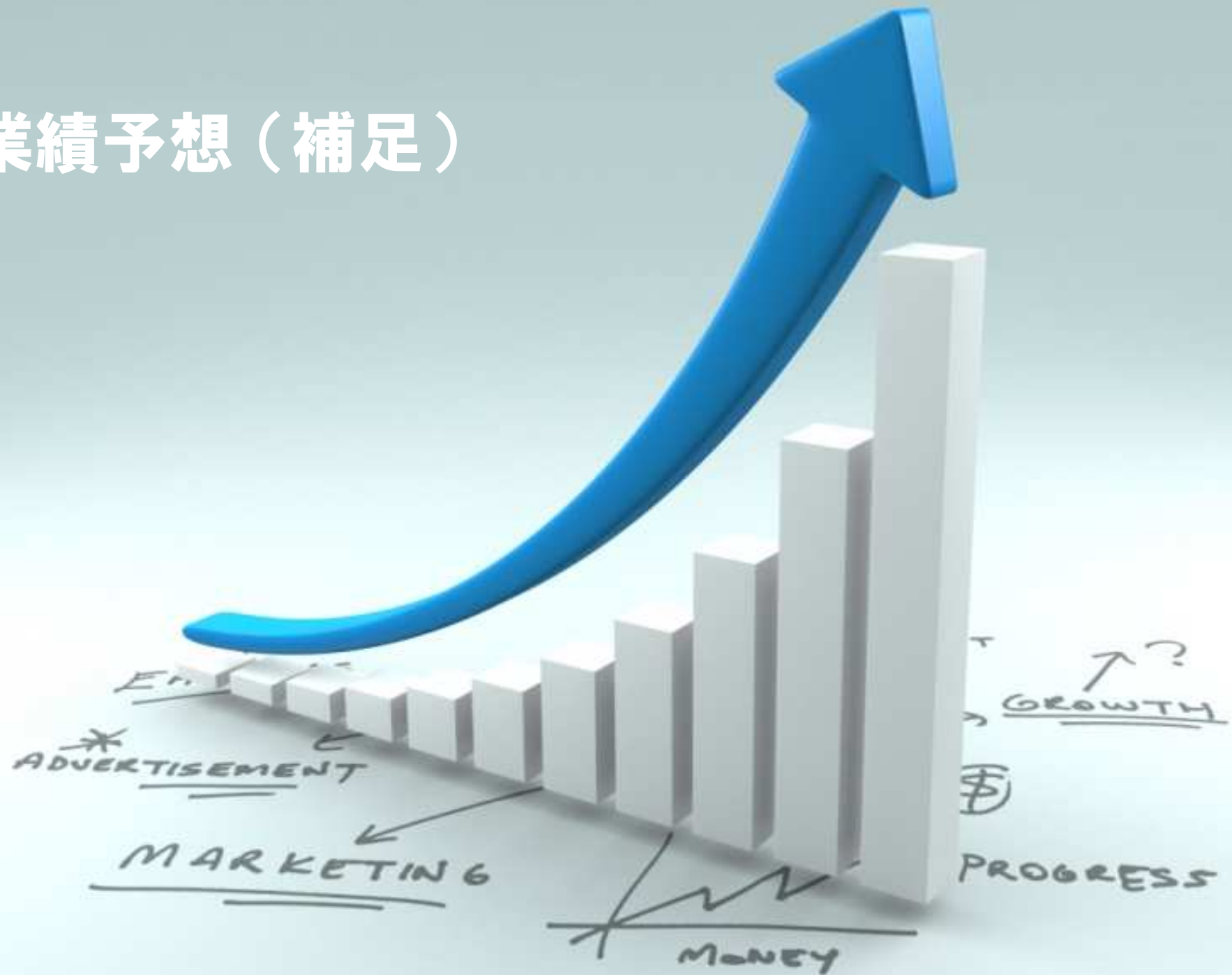
[経営、提携・新会社設立・事業再編など]

- セグメントの変更のお知らせ (7/9)
- 「NECグループ環境経営行動計画2017/2030」の進捗について～「NEC環境アニュアルレポート2013」発行～ (7/3)
- NEC Announces Establishment of New Global Headquarters for Public Safety Business (6/13)
- 沖縄を拠点としたSoftware-Defined Networkingやクラウドコンピューティング技術の研究機関「沖縄オープンラボラトリ」の設立 (5/31)
- 「2015中期経営計画」を策定 (4/26)
- NECモバイリング株式会社に対する公開買付けへの応募および特別利益の計上に関するお知らせ (4/26)
- ハイブリッドファイナンス(劣後特約付ローン)による資金調達のお知らせ (4/26)



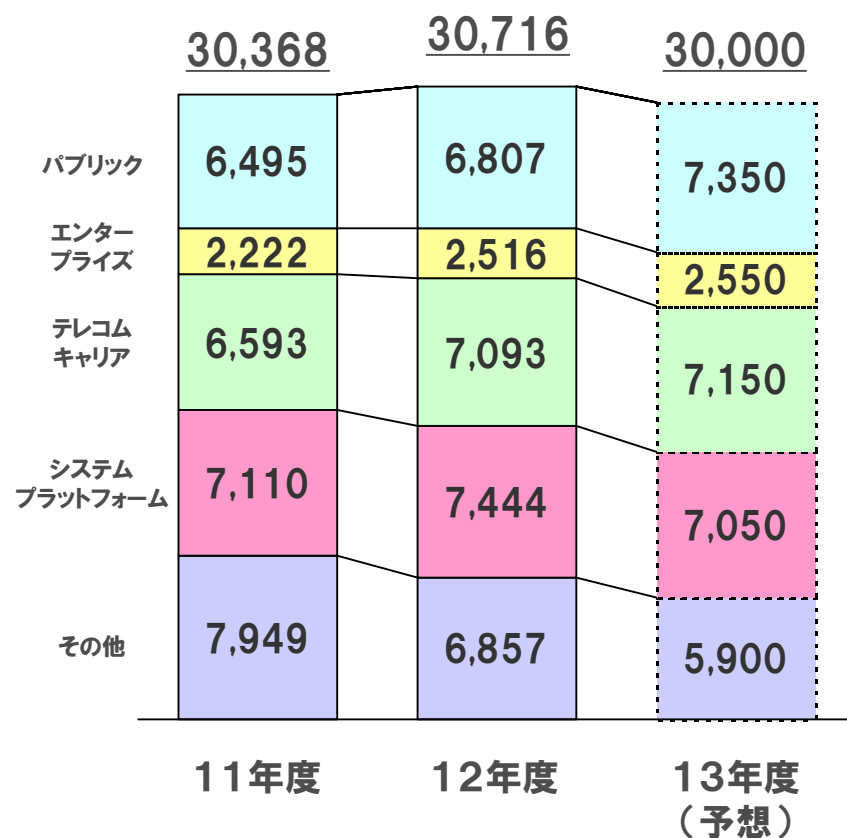
「家庭用蓄電システム」

業績予想（補足）

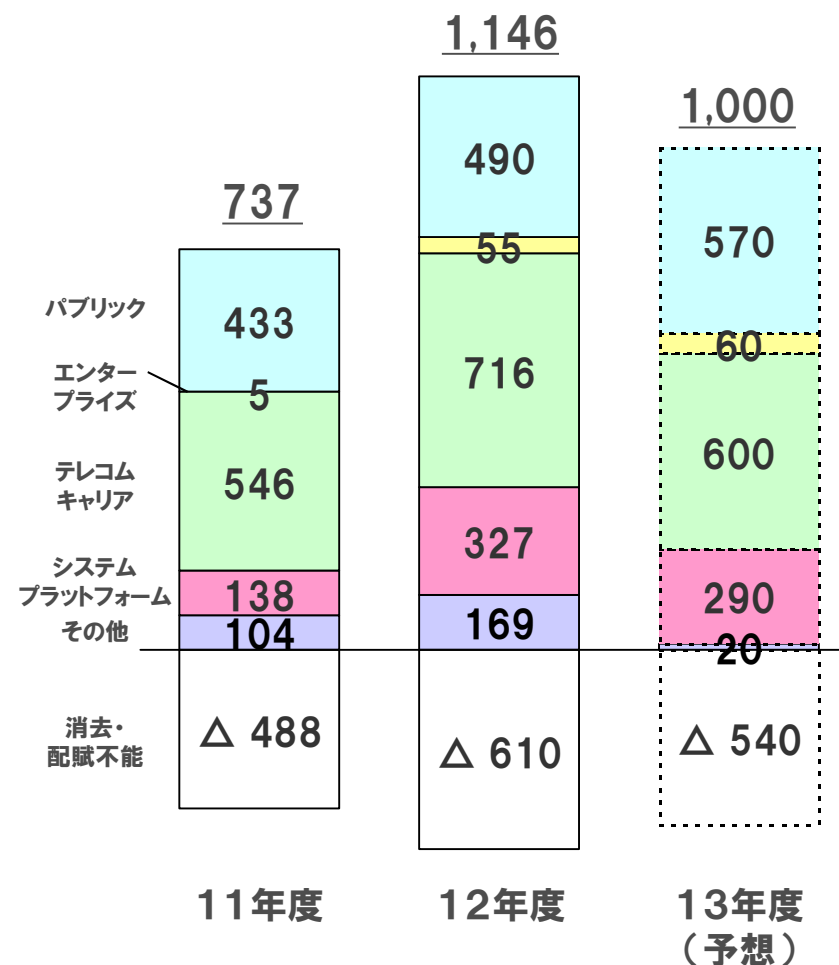


セグメント別 業績予想

売上高



営業損益



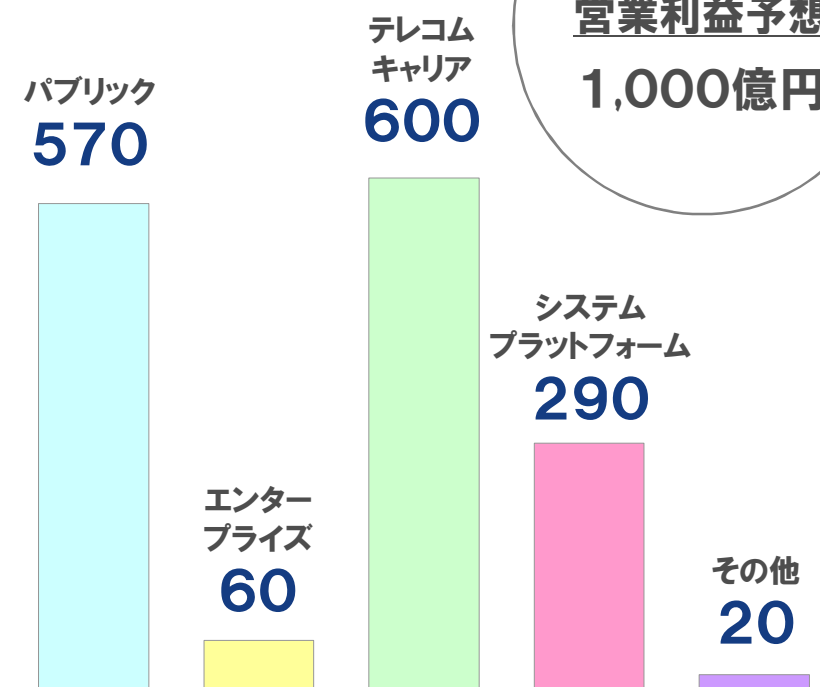
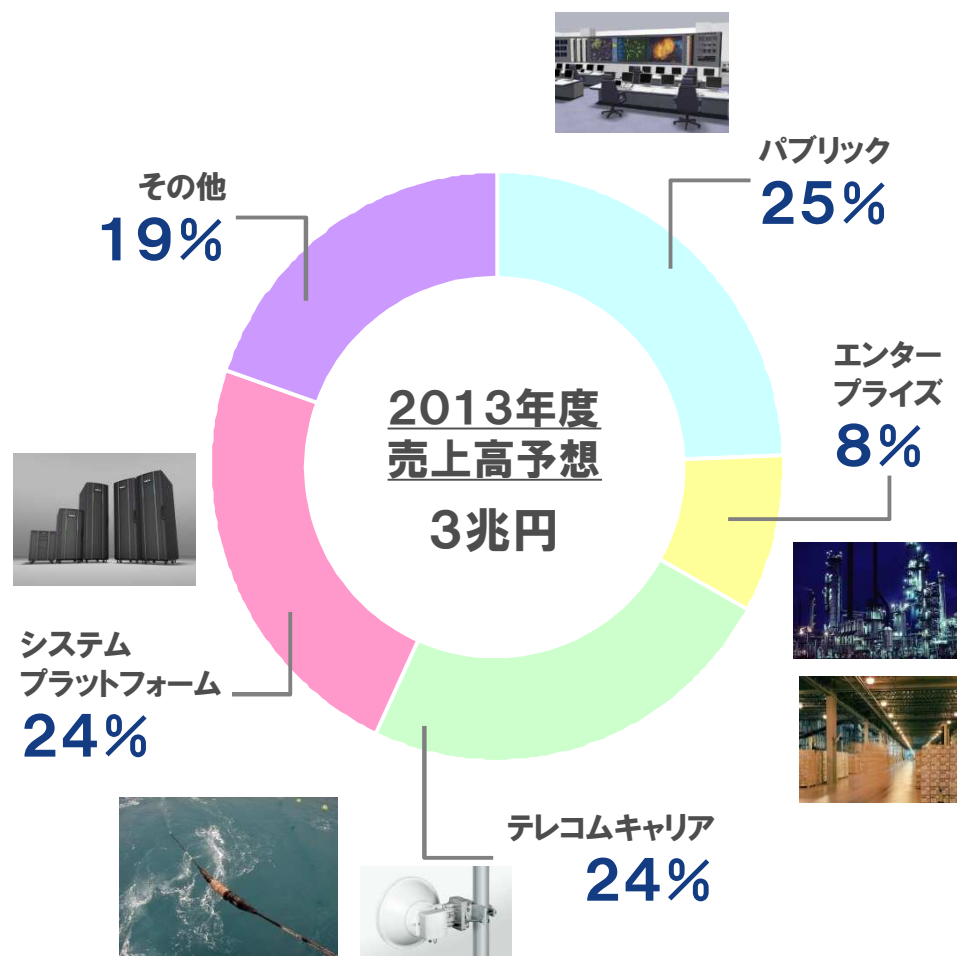
※ 予想値は、2013年7月31日現在

セグメント別 業績予想サマリー

売上高

営業利益

(億円)

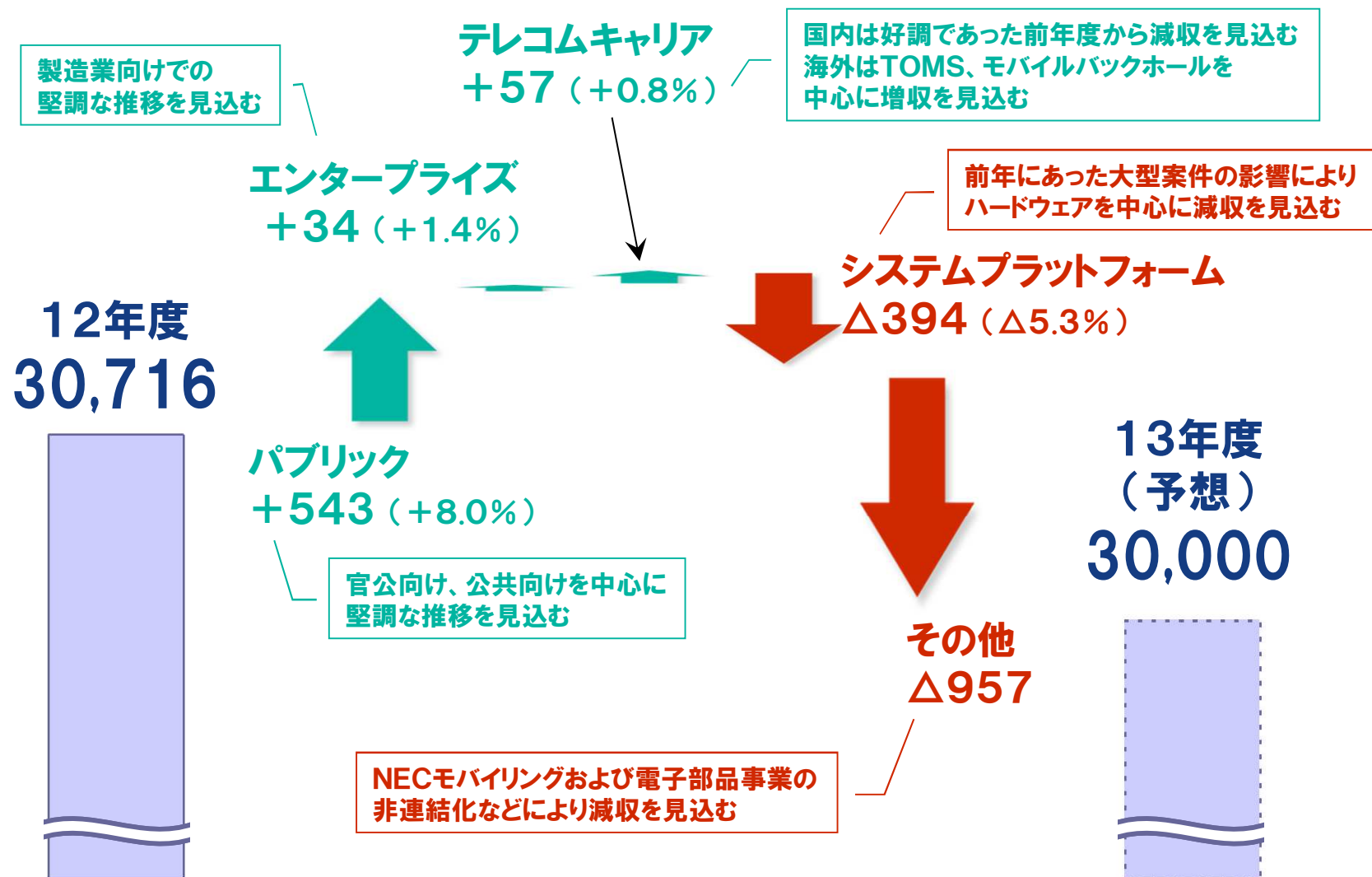


※ 予想値は、2013年7月31日現在

売上高増減（前年度比）

13予想

（億円）

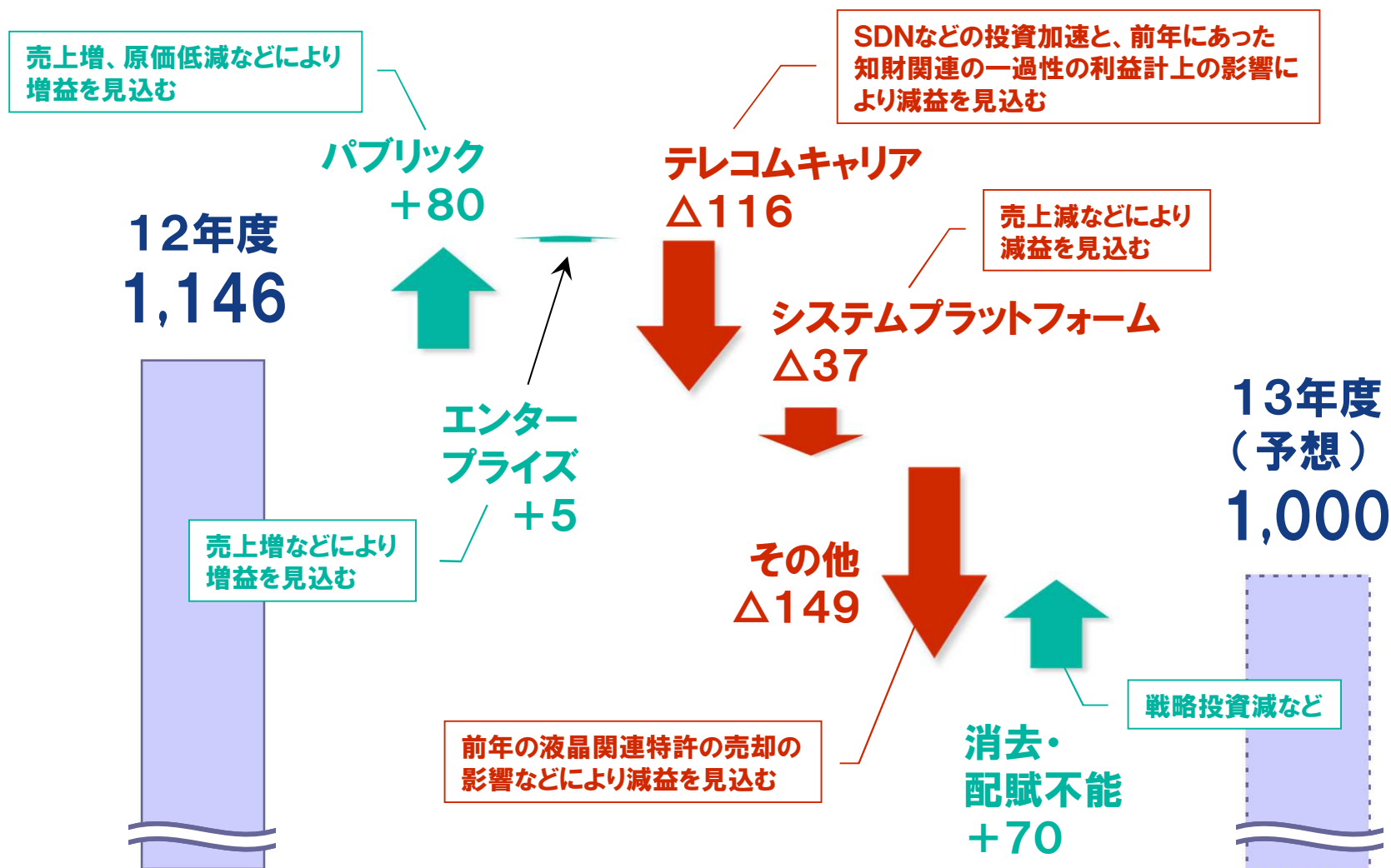


※ 予想値は、2013年7月31日現在

営業利益増減（前年度比）

13予想

（億円）



※ 予想値は、2013年7月31日現在

設備投資額・減価償却費・研究開発費

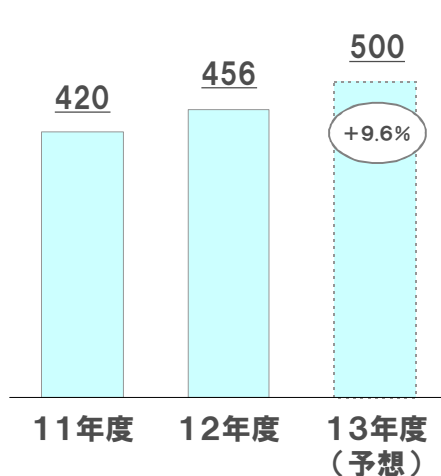
(億円)

前年度比

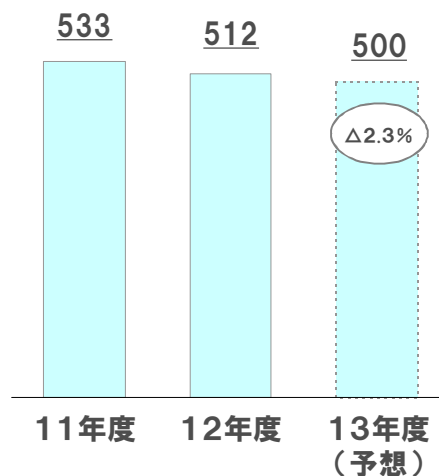
	11年度 実績	12年度 実績	13年度 予想	前年度比
設備投資額	420	456	500	9.6%
減価償却費	533	512	500	△ 2.3%
研究開発費	1,620	1,517	1,600	5.5%
売上高比率	5.3%	4.9%	5.3%	



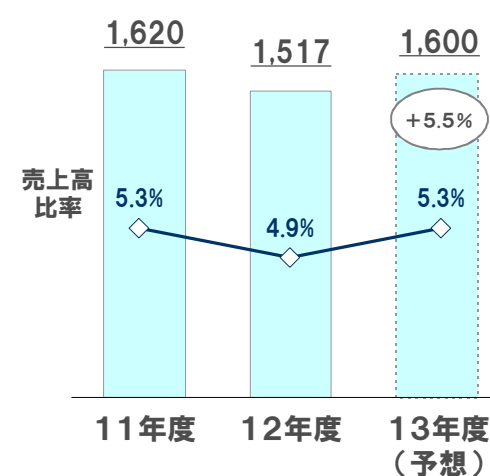
設備投資額



減価償却費

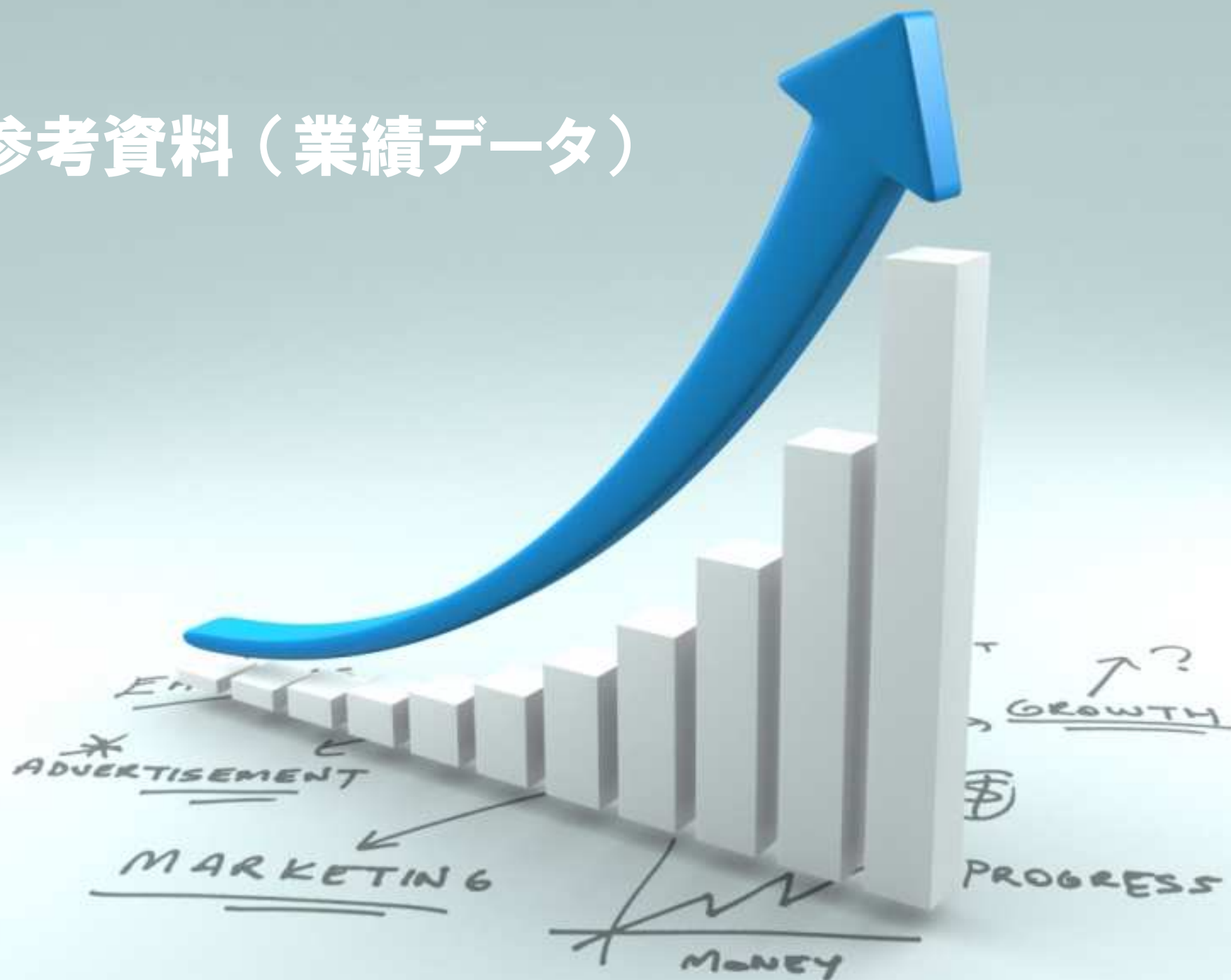


研究開発費

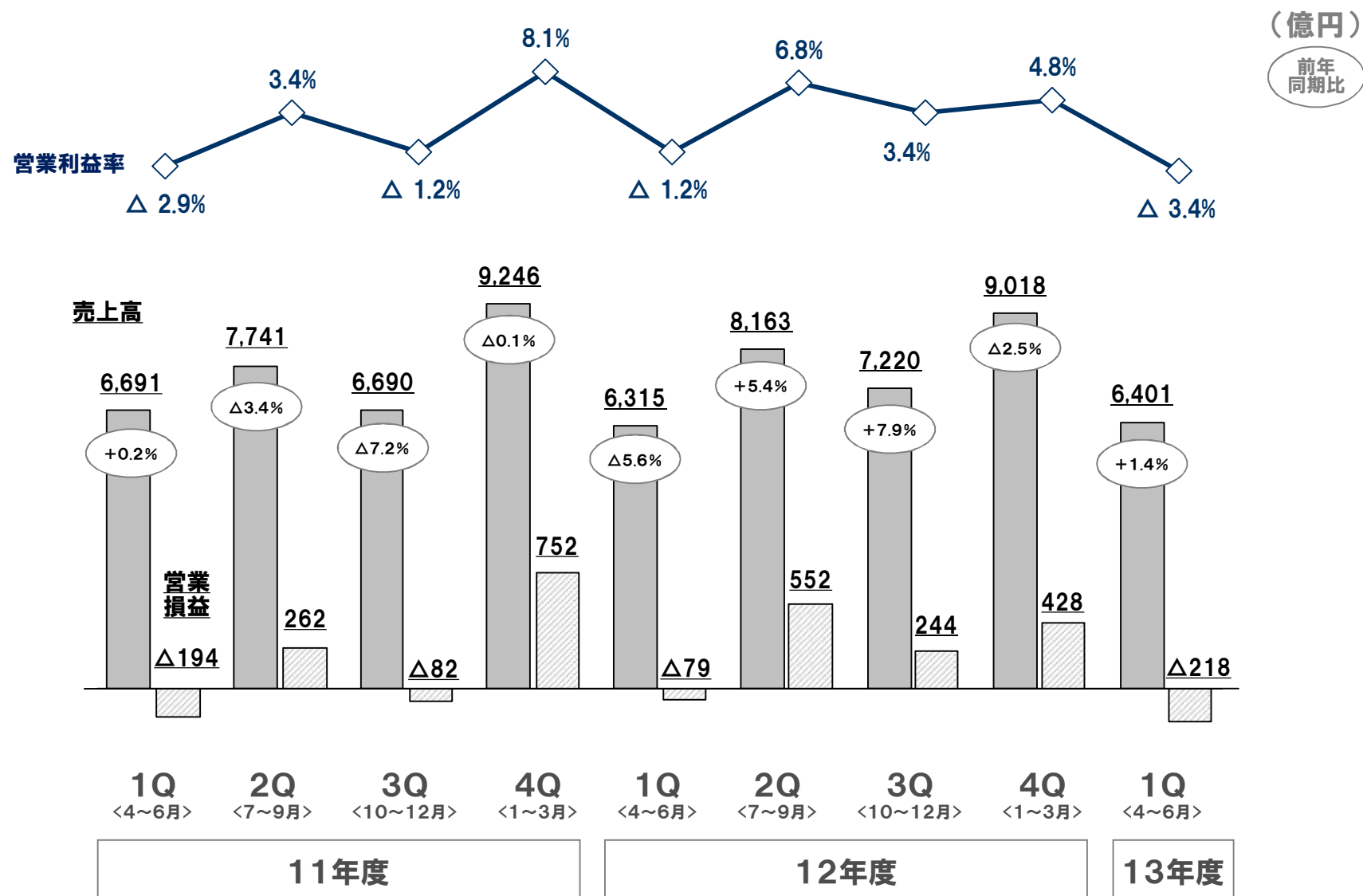


※ 予想値は、2013年7月31日現在 (4月26日の前回予想から変更ありません)

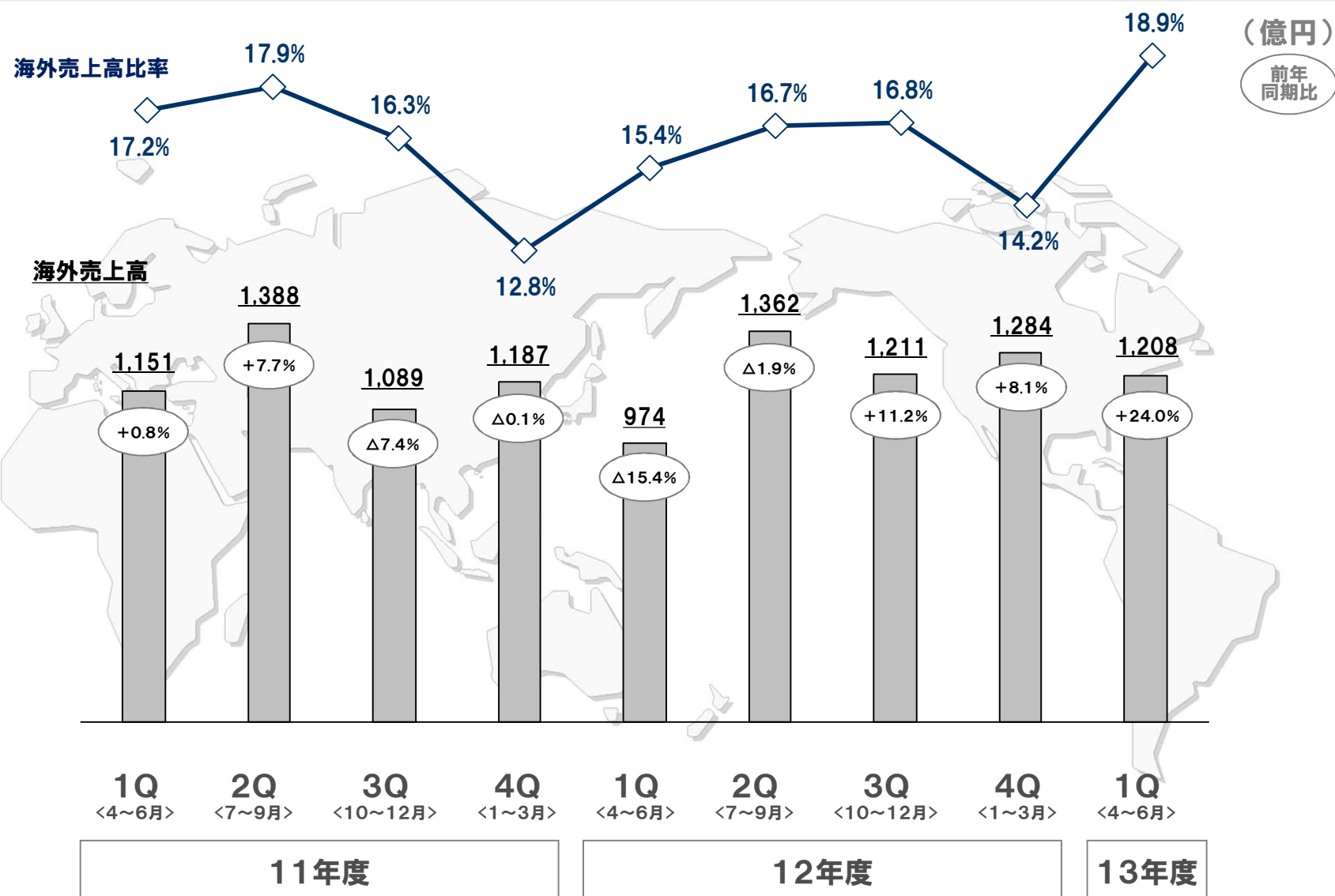
参考資料（業績データ）



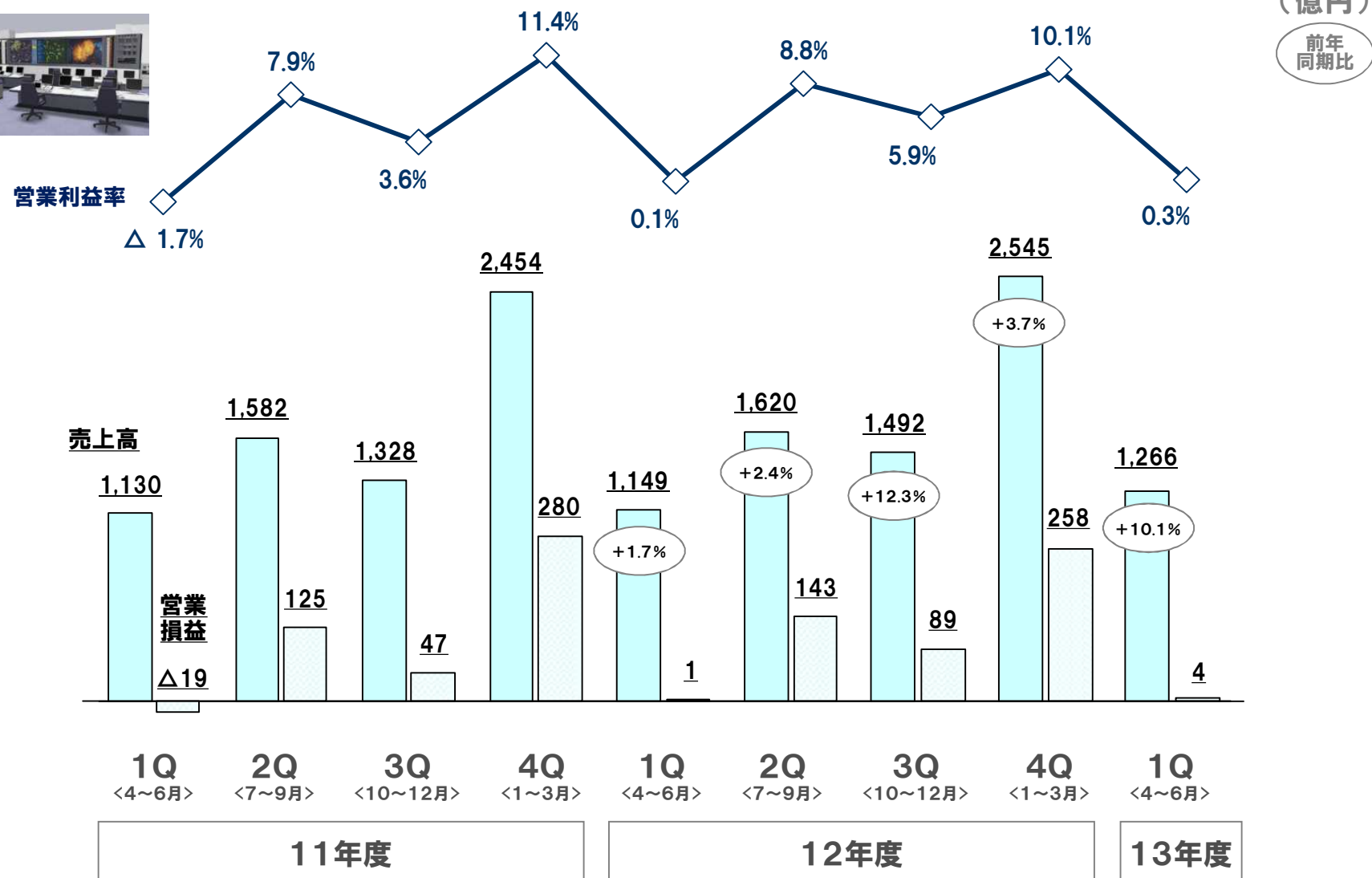
全社売上高・営業損益推移



海外売上高推移



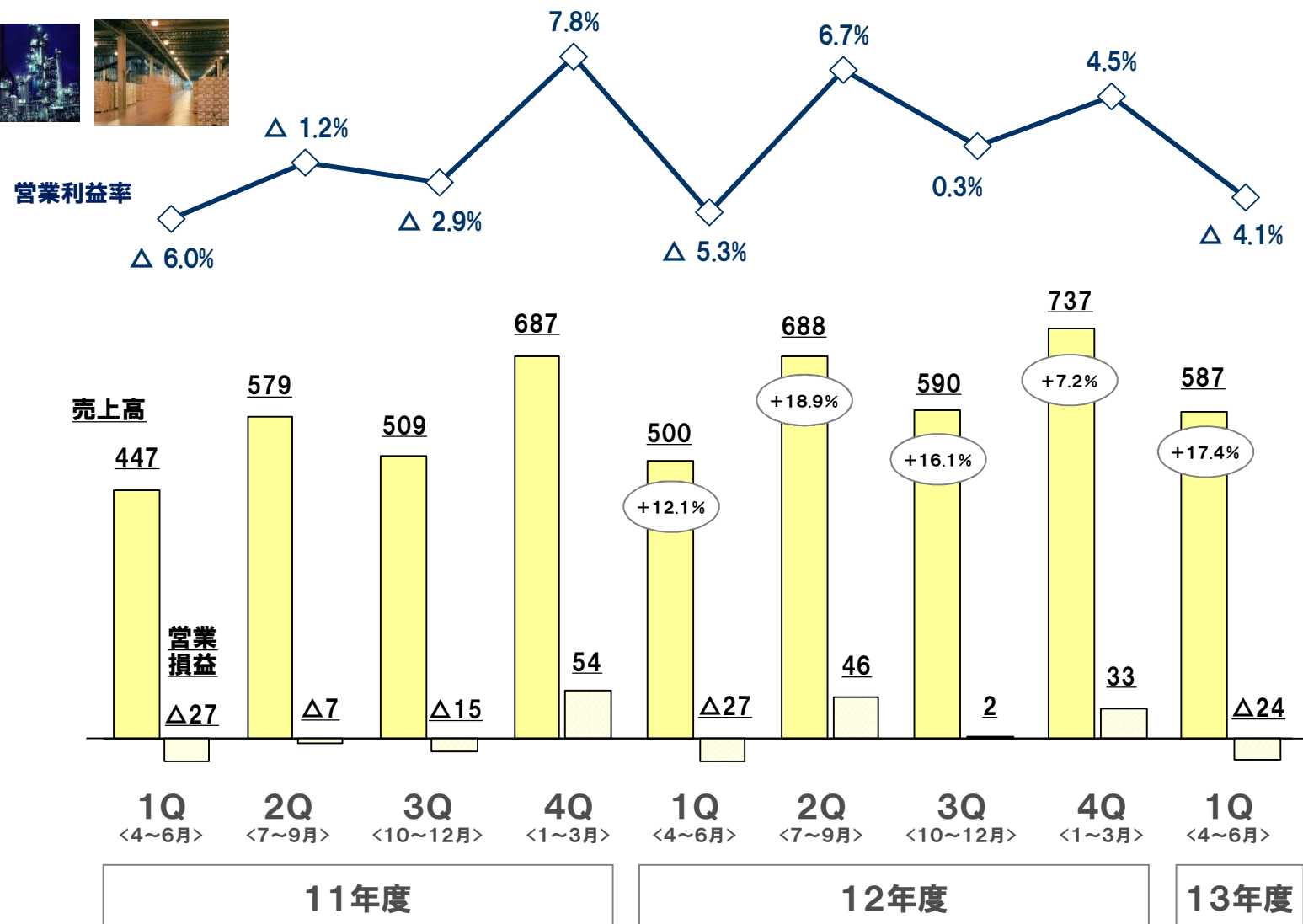
パブリック 売上高・営業損益推移



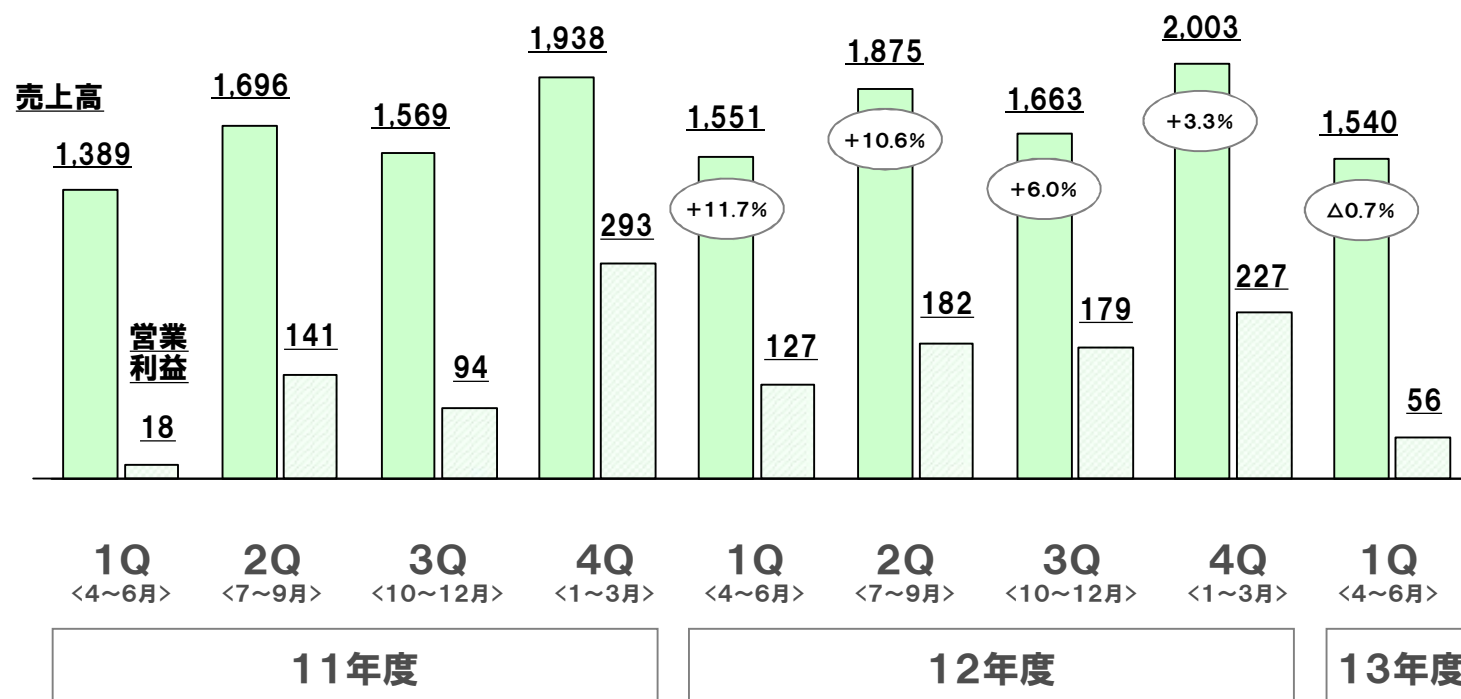
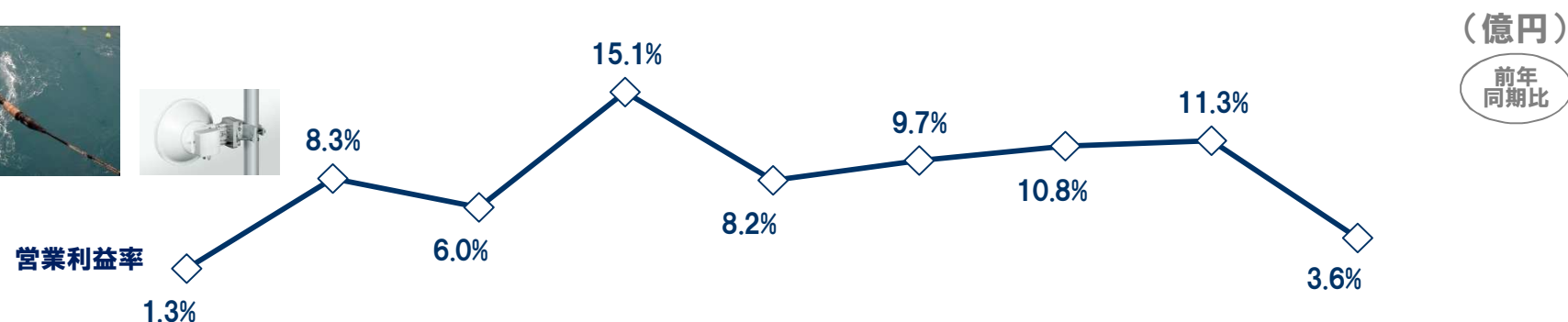
エンタープライズ 売上高・営業損益推移

(億円)

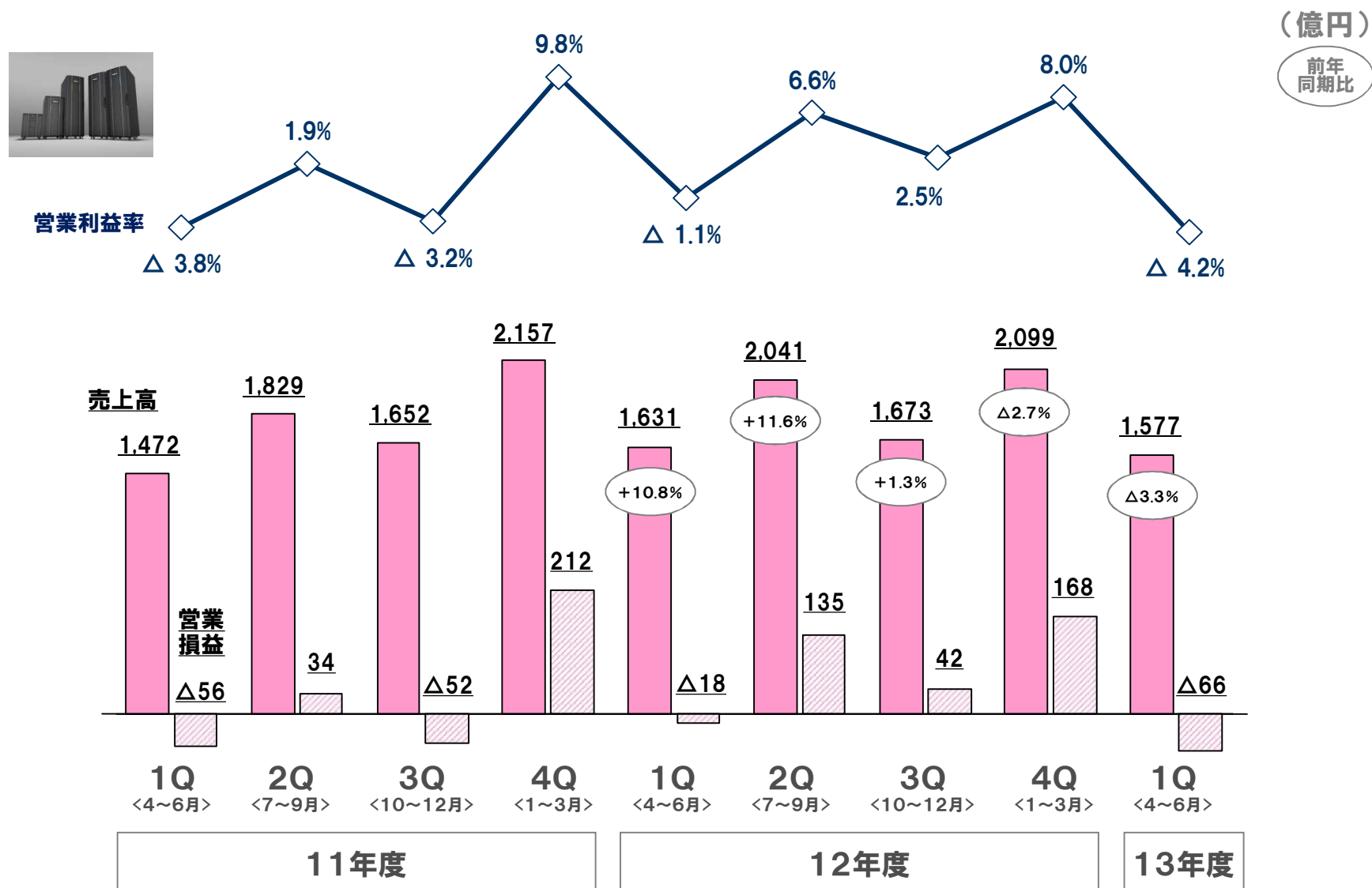
前年
同期比



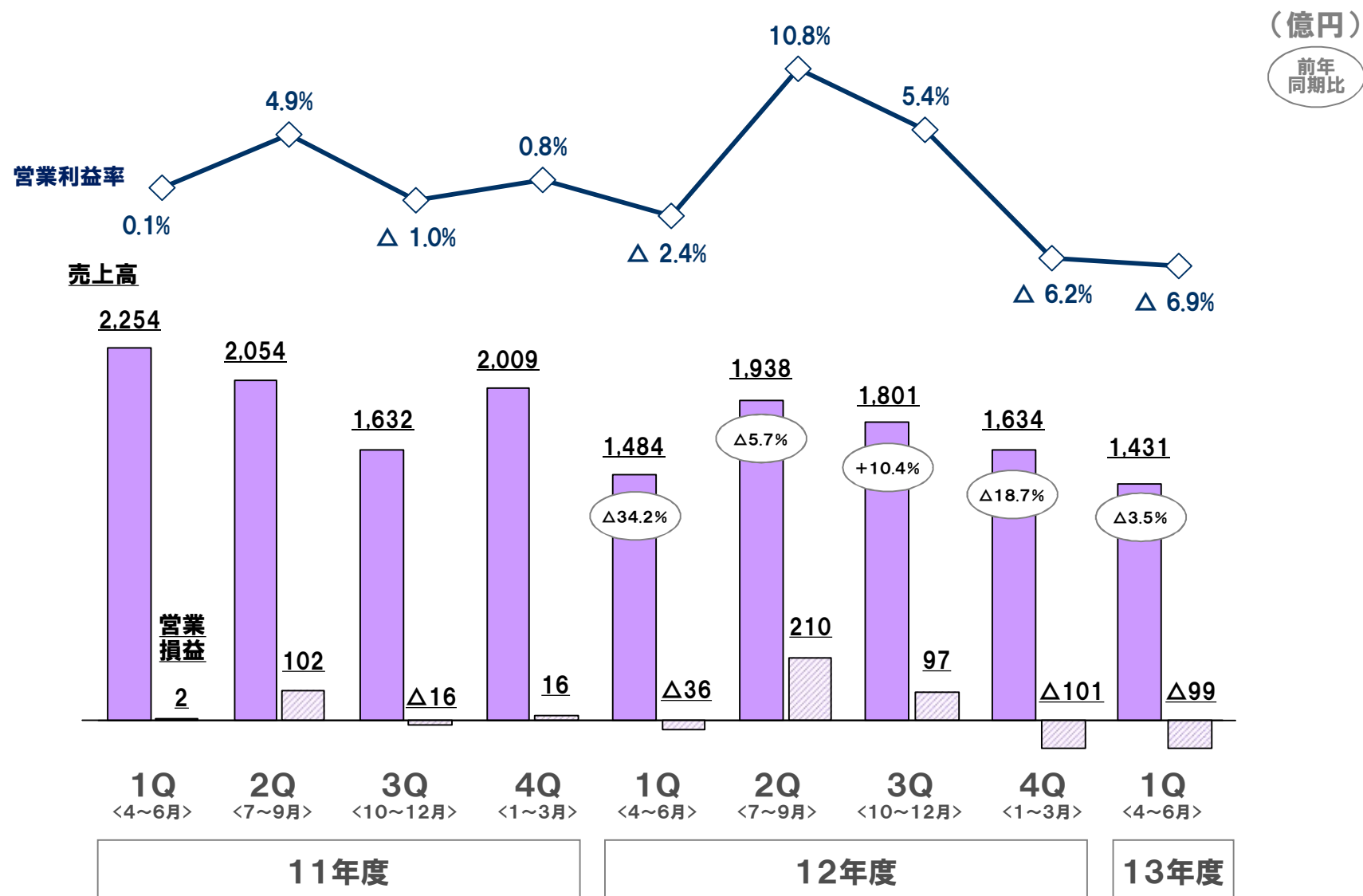
テレコムキャリア 売上高・営業損益推移



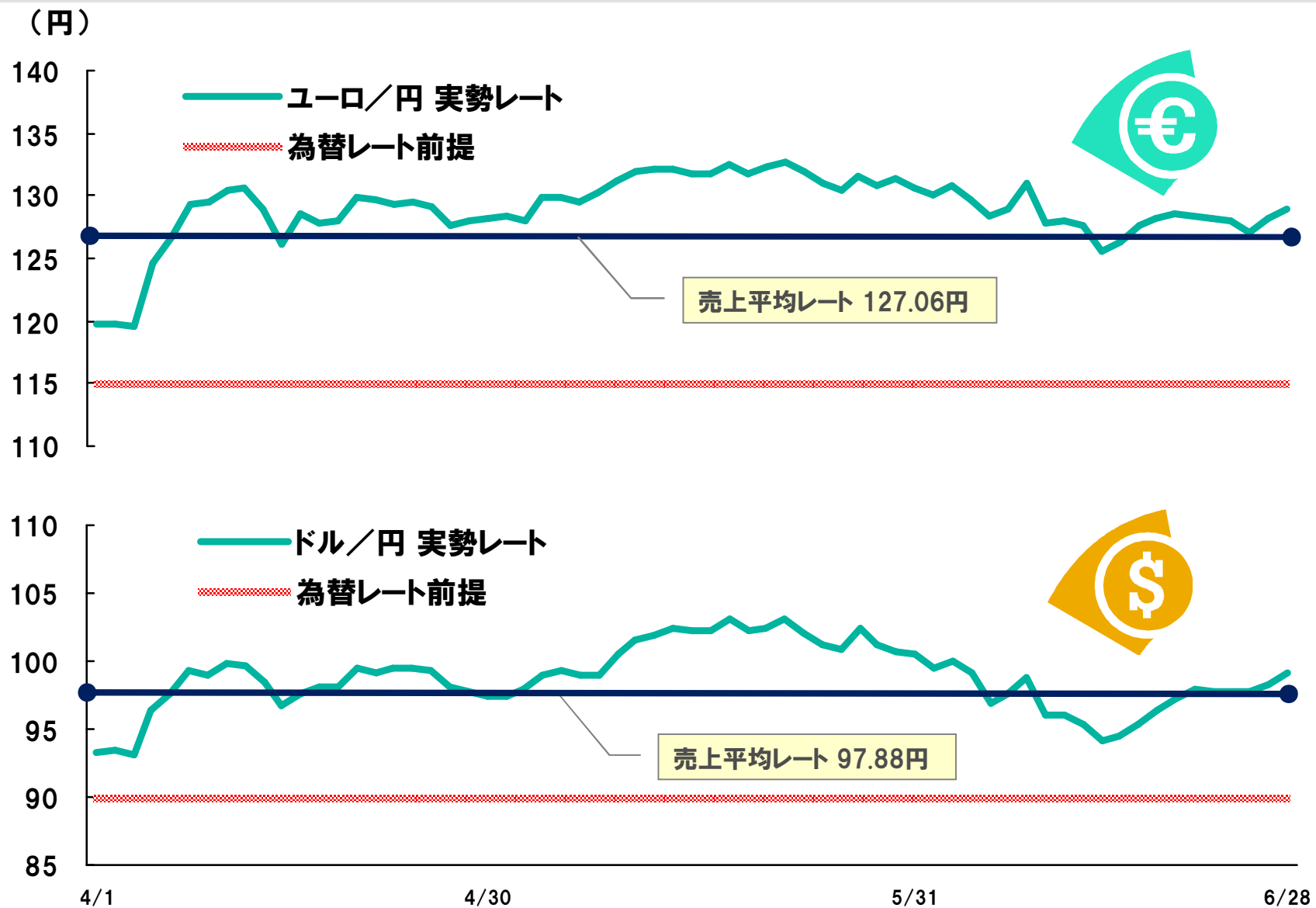
システムプラットフォーム 売上高・営業損益推移



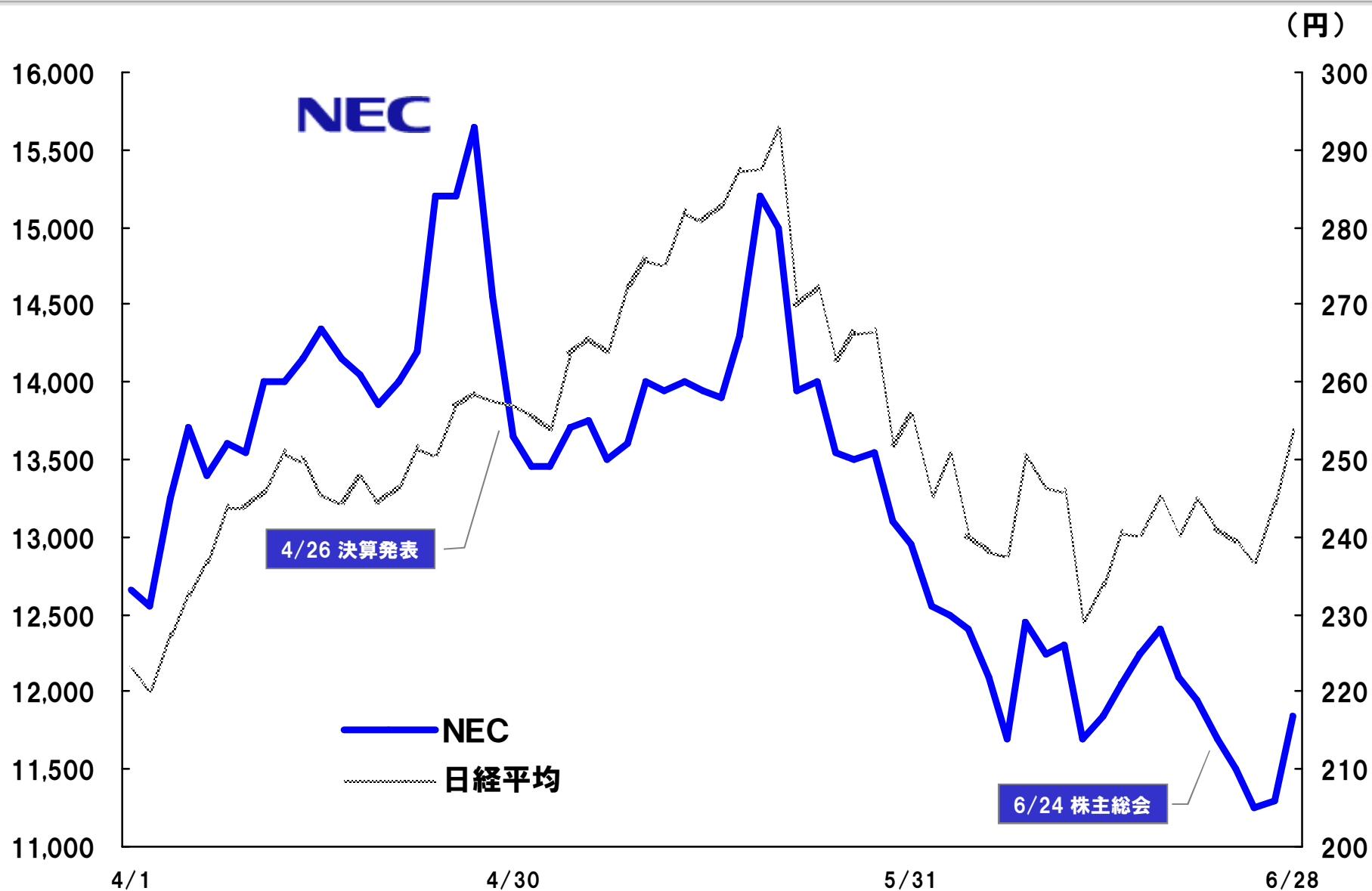
その他 売上高・営業損益推移



為替レート推移



株価の推移



＜将来予想に関する注意＞

本資料には日本電気株式会社および連結子会社（以下NECと総称します。）の戦略、財務目標、技術、製品、サービス、業績等に関する将来予想に関する記述が含まれています。将来予想は、NECが金融商品取引所や関東財務局長等の規制当局に提出する他の資料および株主向けの報告書その他の通知に記載されている場合があります。NECは、そのような開示を行う場合、将来予想に関するセーフハーバー（safe-harbor）ルールに準拠しています。これらの記述は、現在入手可能な仮定やデータ、方法に基づいていますが、そうした仮定やデータ、方法は必ずしも正しいとは限らず、NECは予想された結果を実現できない場合があります。また、これら将来予想に関する記述は、あくまでNECの分析や予想を記述したものであって、将来の業績を保証するものではありません。このため、これらの記述を過度に信頼することは控えるようお願いします。また、これらの記述はリスクや不確定な要因を含んでおり、様々な要因により実際の結果とは大きく異なりうることをあらかじめご了承ください。実際の結果に影響を与える要因には、(1) NECの事業領域を取り巻く国際経済・経済全般の情勢、(2) 市場におけるNECの製品、サービスに対する需要変動や競争激化による価格下落圧力、(3) 激しい競争にさらされた市場においてNECが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供し続けていくことができる能力、(4) NECが中国等の海外市場において事業を拡大していく能力、(5) NECの事業活動に関する規制の変更や不透明さ、潜在的な法的責任、(6) 市場環境の変化に応じてNECが経営構造を改革し、事業経営を適応させていく能力、(7) 為替レート（特に米ドルと円との為替レート）の変動、(8) NECが保有する上場株式の減損をもたらす株価下落など、株式市場における好ましくない状況や動向、(9) NECに対する規制当局による措置や法的手続による影響等があります。将来予想に関する記述は、あくまでも公表日現在における予想です。新たなリスクや不確定要因は随時生じるものであり、その発生や影響を予測することは不可能であります。また、新たな情報、将来の事象その他にかかわらず、NECがこれら将来予想に関する記述を見直すとは限りません。本資料に含まれる経営目標は、予測や将来の業績に関する経営陣の現在の推定を表すものではなく、NECが事業戦略を遂行することにより経営陣が達成しようと努める目標を表すものです。本資料に含まれる記述は、有価証券の募集を構成するものではありません。いかなる国・地域においても、法律上証券の登録が必要となる場合は、有価証券の登録を行う場合または登録の免除を受ける場合を除き、有価証券の募集または売出しを行うことはできません。

（注）

当社の連結財務諸表作成に関する会計基準は「日本会計基準」を採用しています。

年度表記について、2011年度は2012年3月期、2012年度は2013年3月期（以下同様）を表しています。